

# 部 報

平成14年度

No. 48



北海道大学馬術部 謹製

# 馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80



## 馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君作歌

一

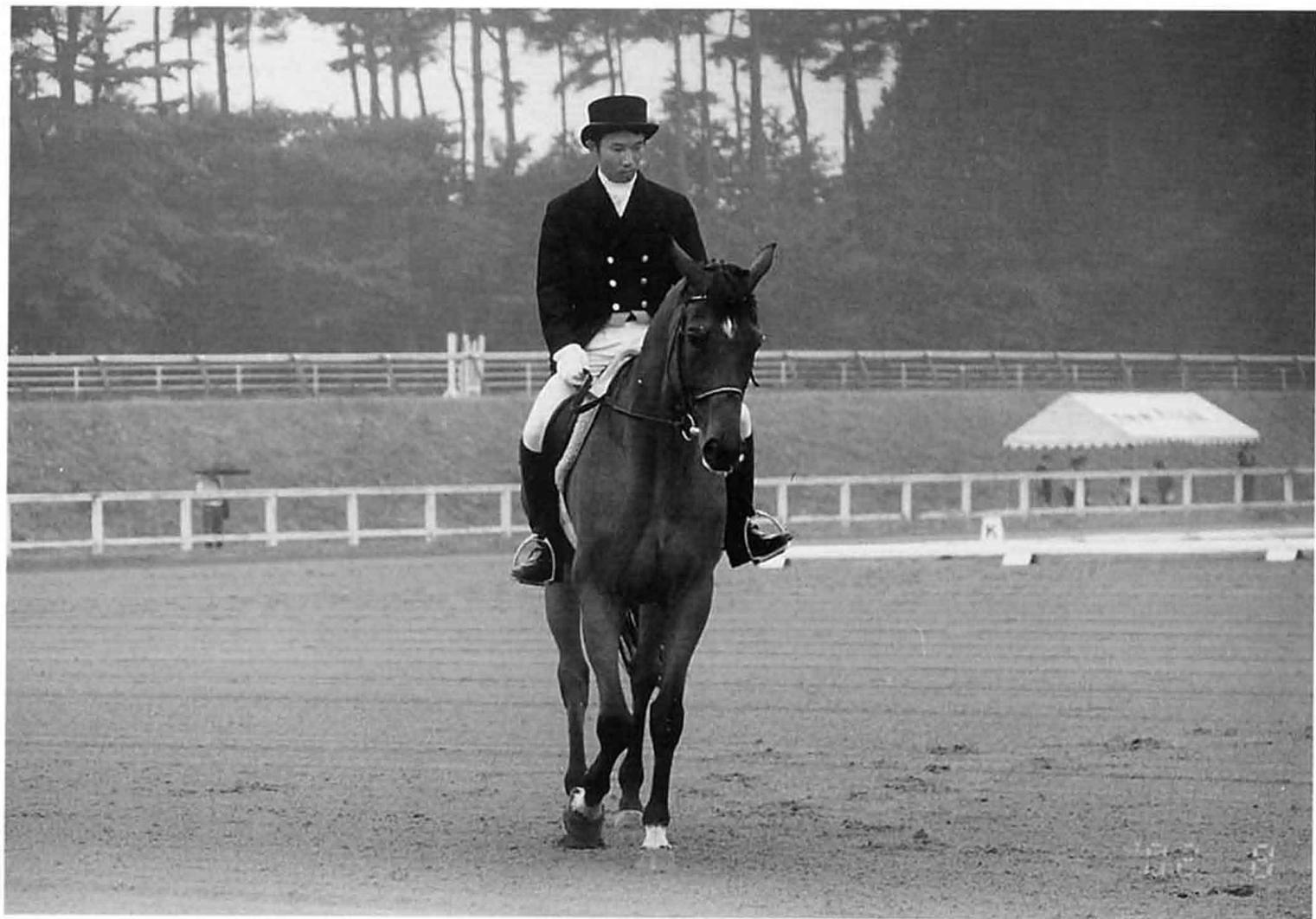
春来たれば 大地光る  
銀の遠山 夢茫茫たり  
高らかに 今ぞ嘶け！  
われら駿馬のほまれあり

二

時来たれば 旗をかざせ  
青雲の旅路に 意気軒昂たり  
高らかに 今ぞ嘶け！  
われら駿馬のほまれあり

三

雲流れて 旅路遙か  
青春の孤杖 泥濘はばめど  
凜然と 進みて行かむ  
駿馬のほまれあるかぎり  
北大！ 北大！ お、我が母校  
われら駿馬のほまれあり



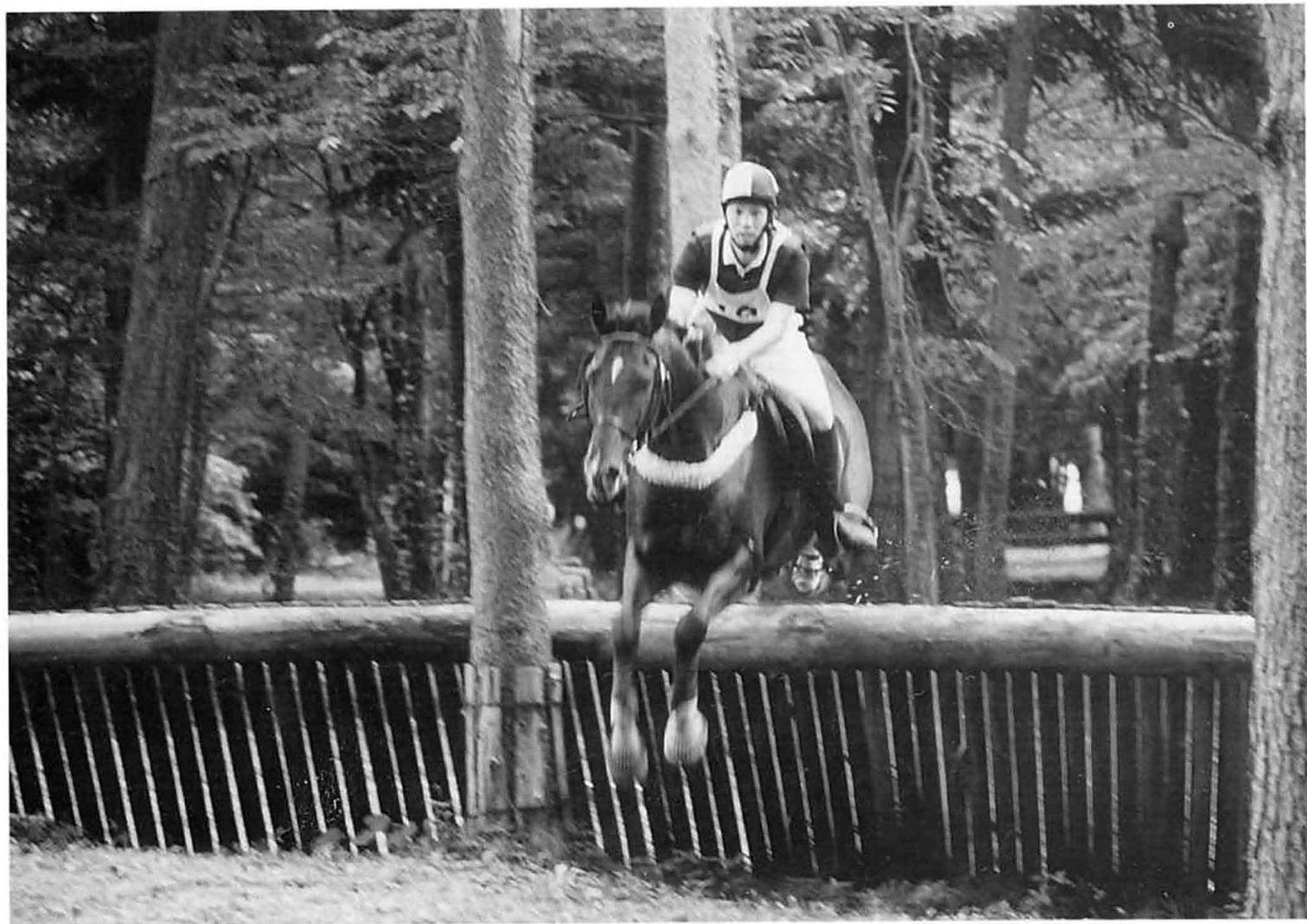
加藤兄と北鈴号



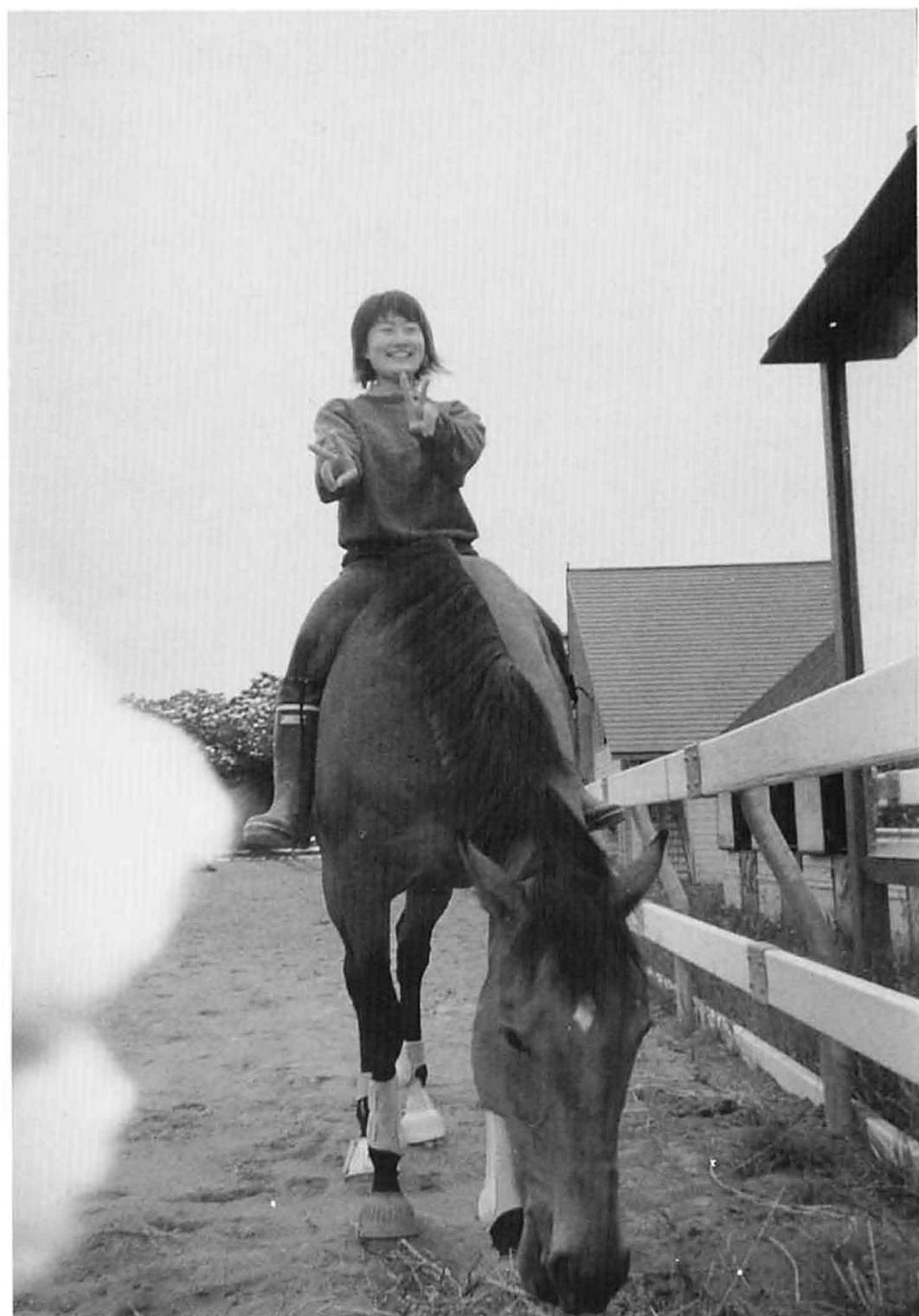
国井姉（全日学女子選手権）



堀内兄と北蘭号



山口兄と北陽号



吉川姉とヤスノインディアン号

## 目 次

巻頭書 ー北大馬術部は“世代間ギャップ”を克服できるかー	市川 瑞彦	2
前主将より	山口 剛司	3
会計報告	高島 涉	4
活動報告		5
戦績報告		9
調教報告		
北凌号	堀内 太郎	22
北旋風号	山口 剛司	24
北鈴号	加藤 幸作	26
北陽号	山口 剛司	28
北彗号	木村 滋之	30
リッチステート号	竹田 敏宏	36
ヤスノインディアン号	尾崎 哲浩	39
ウッドバイン号	木村 滋之	42
サラマンダー号	武井 亮	44
入厩報告		
エルグレイ号	高島 涉	46
シンコウブラウン号	前野 伸策	47
離厩報告		
北蒼号	堀内 太郎	48
北斗号 (調教報告)	寺島 良	49
グリーンザクロス号	高島 涉	51
ファンキーバブル号 (調教報告)	寺島 良	52
北蘭号離厩特集		
北蘭号の思い出	亀山 巖	54
北蘭号	大崎 智弘	55
ひだかの引退によせて	杉山 賢治	57
	堀内 太郎	59
北蘭号主戦績		61
OB寄稿		
37年入部同期会賑々しく開催	37馬術部同期会ネット	62
	中野 兼一	67
	小野 元也	69
北大水産馬術部活動報告		
卒部にあたって		72
部員紹介		75
写真 (北日学、全日学)		81
OB名簿		89
現役部員名簿		99
広告		100
編集後記		106

## 北大馬術部は“世代間ギャップ”を克服できるか

北大馬術部部長 市川 瑞彦

世代が異なるとコミュニケーションがスムーズに行われずとは、よく言われることである。最近ではそれがどんどんひどくなり、大学でも学生間で2、3年も違えばもう話が通じないなどと言われる。北大馬術部でもOBと現役、OB間での“世代間ギャップ”が私は最近気になっている。これに関連して、私の印象に残っているできごとがある。いつであったか詳細は忘れたが、ある馬術部の会合に久しぶりにある大先輩が出席された。最後に電気を消して恒例の「都ぞ弥生」を肩を組んで歌った後で、その大先輩は言われた。“「都ぞ弥生」をこんな風に歌うのなら、もうおれはこの会には出ない”。事実それからその先輩には会でお目にかかっていない。私の現役時代でも、いまのように節の最後を「ながーく」伸ばしては歌わなかったので、私の20年も上のその先輩からすればとても受け入れ難いものであったと思われる。現在よく歌われている「馬術部賛歌」の作詞者・作曲者は、それぞれ私の1年・2年後輩にあたるが、この歌は逆に、当時はそんなに早いテンポで歌ってはいなかったと思う。

世代間ギャップの問題は、この例のように厄介な代物である。ましてや、北大馬術部は創部以来およそ75年という伝統ある部で、その間には戦争をはさんでとり巻く環境も大きく変わってきた。軍隊、続いて競馬場などに依存していた時代、自前の施設と自馬をもったが、施設・飼料などを農場に依存しプロが調教した馬だった時代、そして現在のように施設とわずかの予算を大学から援助されているが、調教も資金も部員が賄わなければならない時代へとである。また、馬は中半血からサラブレッド主体へ、試合形式は貸与馬から自馬となり試合ごとの馬輸送が大仕事となり、部員はほぼ全員初心者から（一部の私立大学では）乗馬歴数年以上で大会入賞の実績ある選手がスポーツ推薦枠で外産馬を連れて入ってくる時代へと変わった。このような基盤の変化もコミュニケーションを困難にさせる一要因だろう。

我々OBと現役は、年々長く伸びてきた鎖の関係、いわゆる“一蓮托生”の関係にあり、そもそも一部だけ切り離して考えること自体意味がない。また、年齢がギャップを生む要因とも言い切れない。むしろ、時代環境の違いがより大きいだろう。事実、共通体験があれば、年齢が離れても実にいい付き合いをしている人もいる。OBは現役に希望を託し、何か役に立ちたいし、経験も伝えたいと思っている。このような視点で見れば、例えばの話、現役が自分たちだけでできたなどと考えるのは思い上がり・錯覚であり、OBの間でも一部だけで何かをやるうとするのは不適切ということになろう。我々は時代が異なっても“同じ釜の飯”を食べてきた仲間だし、情報をひろく公開し、時代環境の違いにも思いを馳せて胸襟を開いて話し合えば、「世代間ギャップの問題」は超えられると思うが、どうだろうか。皆さんそれぞれの立場から一度考えていただきたいと思い、問題を提起したしだいです。（2003.2.20）

## 【前主将より】

山口 剛司

今年の結果は全日学に3頭出場、うち2頭は補欠としての繰り上げ出場であり、また目標の団体を取ることができず決して満足のいく成績とは言えない。

部を強くするためにはやはり部を一つにまとめる必要がある。部員が一つにまとまれば、北日学でよい結果が生れると思う。ドンパ同士、上級生と下級生、OBと現役、様々なコミュニケーションを大切にしなければならない。それらを通して自分たちの思うようにやれば良い。

最後になりましたが、市川先生を始めOBの方々、乗馬関係の方々にはいろいろとお世話になり、ありがとうございました。そしてまたこれからもよろしく願います。

チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470

# 会計報告 2002年1月～12月

会計 高島 渉

## 収入

鷲田商店	365400
明治飼糧	85890
モモセ	406400
JRA開催	1689762
その他	102000
部費	530000
朝日新聞社	217010
道馬連バイト	128000
半澤杯	219000
道庁バイト	514500
大会役務費	900000
セレクトセール	117600
メインフィールズ	75000
計	3802962

## 支出

飼糧	1490351
薬品	820601
電話	141522
装蹄	947000
馬備	160840
車輛	1075627
作業	484345
交通費	2277985
衛生	60736
雑費	108336
事務	314424
後援会	141092
ビデオ・カメラ	45802
エントリー料	445625
計	8514286

**腹へ二様大歓迎**  
 丼物各種500円～650円  
 バラかつ丼 カツ丼 牛カルビー丼 他丼物各種  
 定食各種650円～730円  
 回鍋肉 肉野菜炒め 子キンカツ 他定食各種  
 御満腹 御満悦! 北大生御用達の店!  
**北の宮 六宝亭**  
 AM11:30～2:30 PM5:00～10:30  
 北21条西4丁目北大通り沿い

## 【主将】

寺島 良

現在部活動は3年目が6人、2年目が3人、1年目が6人、合計15人で運営、活動している。そしてそれに対して馬の数は11頭である。その中で二走に出場できる馬は5頭、総合は6頭いる。二走、総合共に出場できる馬は2頭である。ここで問題になるのは、人の数に対して馬が多いことで二走、総合を別々の馬で出場するため2頭乗りになってしまうことと、何らかの体の故障をもっているためにあまり練習することができない馬が今現在多いということだ。しかし、目標とする団体出場をするためにはこれらは解決しないといけないことである。そのためには人の技術力、知識力、勝ちへのこだわりが重要であると思う。今の現役部員は昔からの流れでやっていることが多い。何のためにやっているのか、なぜそれをやらないといけないのか、そういうことを何も考えず、練習や活動をしていると思う。部員全員がそこを深く考えていくことで技術力の向上、勝ちへのこだわりも出てくると思う。

今年は権利枠が増え馬もかなり補強され、チャンスであることには間違いない。そのチャンスをものにできるかできないかは、自分たち次第である。勝つためにやれることはとことん追求していき、部全体が勝ちに行くという雰囲気で行っていくよう精一杯やっていきたい。

## 【副将】

木村 滋之

この部活は、全日学に団体で出場することを目指している。このことの意味をしっかりと考えてほしい。同じ北海道には、帯広畜産大学と、酪農学園大学がある。団体をとろうと思ったら、この2校に勝たなければならない。監督もコーチもなく、経験者もほとんど入っていない北大が勝つためには、部員それぞれが勝つためにはどうしたらいいか真剣に考え、出来る限りの努力が必要である。そして、ドンパに対して時にはよきライバルとして、時には指導者として接し、お互いに高めあっていかなければならない。こんなに周りに対しても、また自分に対しても、真剣になれる場はそうないと思う。だからこそ、皆で勝ちに向かっていこう。

## 【主務】

竹田 敏宏

現在の主務の仕事としては、馬術部施設の管理、道馬連主催の大会をはじめとする北大主管の大会の総括、他団体との関係づくりなどがあげられると思います。

ご存知のように馬術部が24条に移転してから、丸四年がたとうとしています。そんななかで、最近数々の問題が発生し始めました。移転当時は人が足をとられるほど深くて水はけのよかった馬場は、砂がなくなって硬く、またでこぼこになってきました。曳馬に使っていた草地も大学の緑化事業にともなって大木が次々と植えられました。また、野外走行の練習用として設置した固定障害も取り壊しになるかも知れません。厩舎は傾いて扉が閉まりづらく、排水管のつまりは日常茶飯事です。しかし、これからはこれらの問題は常に起こるでしょう。一つ一つの問題が部の活動に支障をもたらすかもしれないので、できるだけ大学に協力を依頼して改善していこうと思っています。幸い、大学学生部の方に話をしたところ平成15年4月をめぐりに馬場問題は何とかしてくれるそうです。

また、大会主管に関しても部員数の減少にともなって運営が大変になり、また部員一人一人に対する負担も大会成績に悪影響を及ぼすようになっていきます。この問題についても他大学に援助を求め、試合に関しては食欲に結果を出せるようにしたいです。

初心表明のようになりましたが、今年一年も施設の不備と部員減少は起こると思います。そんな中で少しでも部活動が円滑に進むよう、それぞれを対処していこうと思います。

## 【馬匹】

木村 滋之

今年を振り返ってみると、疝痛等の大きな病気や事故等はなかった。特に疝痛はここ数年間では年に2～3回、軽いものしか起きていない。これは数年前に北獅・フライトを2年続けて疝痛により失い、疝痛予防対策として全馬の飼いにお湯を入れて練り飼いにするなどして、絶対に疝痛を起こさないという体制を先輩方が作ってきたからだと思う。そして今年、9月に代がかわって北獅の疝痛を経験した代がいなくなり、それは同時に疝痛への意識の低下する可能性も意味する。今の現役は疝痛に立ち会った経験も少なく、あまり疝痛を知らない。

これからも、馬を疝痛や大きな事故、病気で失うことのないように部員みんなの意識を高め、それを受け継いでいってもらえるように努力していくことが必要である。

## 【飼料】

利根川 正明

今年度の飼料の報告をしたいと思います。まず、馬に与える飼料内容を説明します。

今年度、使用した主な飼料は燕麦、ふすま、ヘイキューブ、塩、リンカルの5種類です。毎日運動している馬はおよそ燕麦2L、ふすま1L、ヘイキューブ2.5Lを1日3回、朝昼夕に与え、塩、リンカルは大きじ2杯を1日に2回、朝夕に与えています。またこれらの飼料は湯でふやかして与えています。乾草は各馬約1.5kgを1日に4回、朝昼夕夜に与えています。これらの飼料は明治飼糧さんから購入しています。また乾草や敷藁は畜大OBの長岡さんと中曽根さんからバイト代としていただいています。

現在馬術部では馬場の移転により大学構内から離れてしまったためや、北大農場が大学付属のものではなくある程度独立したことなどにより、春夏に青草を十分に供給できない状態となっています。今年度は、一年中乾草を与えることでなんとかやってこれたのですが、これからも一年中乾草を馬に与えなくてはならないのならば、必ず業者から購入する方法をとらなくてはならなくなります。そして、これらのことにより来年度の課題として挙げられるのは、農場と関係を再び築き上げること、乾草の新たな入手ルートを作ること、あるいは安価で購入することができる業者を探すことなどです。

次に、ボロ山の回収ですが、これも北大農場との関係が途切れてしまったために、上田農園さんや野崎さんに堆肥として回収していただいています。来年度は、ボロ山を堆肥としてもらっていただける方も探していかなければならないでしょう。

ところで米年度からは、H.1卒OBの中野さんの御計らいにより行われた講習会や、東北大OBの南波さんから今の飼料の状況を分析していただいたデータをもとに、現役部員で話し合った結果、飼料の与え方を一部変更することになりました。中野さんや南波さんをはじめとする明治飼糧、並びにNOSANの方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

変更するのは次の2点です。

- ・ リットルを単位として飼料を与えていたのをグラムを単位として与えていくこと。
- ・ サプリメントとして使っていたリンカルを止め、新たにパワーサプリ25を使用すること。

来年度も、部外の方々との関係を大切に、また感謝の気持ちを忘れず、飼料としての役職を果たしていきたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## 【会計】

高島 渉

部員数の減少に伴う収入の減少に歯止めがかからず、現在はこれまでの蓄えを徐々に食いつぶしている状態です。特に今年は北日学が福島県で行われた事、単独で全日学に遠征した事もあり特に支出が多くなりました。最近の傾向から考えて大幅な部員数の増加を望むことは現実的ではなく、支出を減らす事がまず第一ではないかと思えます。

また、部員の現況に対する意識を徹底していくとともに、OBの皆様への御理解と御協力を頂けると幸いです。

## 【後援会】

佐賀 由美子

北大馬術部のOBは全国各地に散らばっており、すべての方と交流をもつことは困難なことなのですが、現在の馬術部に興味を持ってもらうべく、戦績などを送っています。また、現役部員とOBの交流の場として、年に4回のコンパとOB戦、初乗りを行っています。しかし、札幌在住のOBの方々も減ってきており、コンパなども寂しい状況となっています。

他に交流を図る場として、平成6年卒の倉本さんが開設して下さっている北海道大学馬術部後援会ホームページ (<http://www4.big.or.jp/~nono/hokudai/>) があります。現役からもどんどん書き込んでいきたいと思えますので、皆様も是非掲示板にご参加ください。

札幌にお越しの際には、是非部室にお立ち寄りください。

# ☆戦績報告☆

●対東北大学定期対抗戦（於 北海道大学 4月2日）  
 参加選手 馬場（2） 前野（2） 森久保（2）  
 優勝 北海道大学  
 準優勝 東北大学

●国立七大学総合体育大会（於 東北大学 4月6、7日）  
 参加選手 堀内（4） 山口（4） 木村（3）  
 1位 京都大学  
 2位 東京大学  
 3位 東北大学  
 4位 北海道大学

●第8回岩手大学招待学生馬術大会（於 岩手大学、 4月27日）  
 参加選手 高島（3） 武井（3）  
 優勝 大阪府立大学  
 準優勝 弘前大学  
 3位 北海道大学

●第30回半澤杯記念馬術大会（於 北海道大学、 5月5、6日）

◇一般馬場馬術第2課目競技（市川杯） 得点率  
 1位 吉田 テネリヲ 酪農学園大学 56.0%  
 2位 佐藤 テノリヲ 酪農学園大学 49.4%  
 3位 佐賀 北陽 北大（3） 48.3%  
 4位 寺島 ファンキーブル 北大（3） 41.7%

◇一般馬場馬術第3課目競技（齋藤杯） 得点率  
 1位 中井 イェレストクライマ 酪農学園大学 48.7%  
 2位 古賀 ユーフォー 酪農学園大学 48.3%  
 3位 国井 北鈴 北大（4） 47.0%  
 4位 吉川 北凌 北大（4） 46.2%

◇複合馬術競技（太秦杯）

	馬場得点	障害得点	総得点
1位 藤田 ユーフォー 酪農学園大学	390	-5	385
2位 木村 北磐 北大（3）	371	-5	366
3位 森 イェレストクライマ 酪農学園大学	363	-10	353
5位 山口 北旋風 北大（4）	372	-30	342
7位 木村 北凌 北大（3）	369	-58	311
9位 尾崎 (H.12卒) キイホク 乗馬倶楽部メインファイナル	306	-5	301
open 山口 北陽 北大（4）	376	—	—
open 加藤 北鈴 北大（4）	370	—	—
open 竹田 リッチステート 北大（3）	328	—	—
open 寺島 北斗 北大（3）	—	-10	—
open 堀内 北蘭 北大（4）	—	-23	—

◇関門通過 減点

1位 寺島 ファンキーブル 北大（3）	0
2位 小林 イェレストクライマ 酪農学園大学	0
3位 木村 ファンキーブル 北大（3）	0
7位 加藤 グリーンガクロス 北大（4）	17
8位 竹田 グリーンガクロス 北大（3）	20
10位 吉川 ヤスノインディアン 北大（4）	34

◇障害飛越競技100cm (河田杯)				減点	J.O 減点
1位	谷	リードオフリーダー	JRA札幌競馬場	0	0
2位	松井 (S.46卒)	岩竜	モゼライティングファーム	0	0
3位	岩坪	岩竜	モゼライティングファーム	0	棄権
4位	尾崎 (H.12卒)	行休ク	乗馬倶楽部インフィニティ	4	
12位	寺島	北陽	北大 (3)	13	
13位	山口	ウツハイン	北大 (4)	13	
16位	山口	北陽	北大 (4)	27	
19位	加藤	北鈴	北大 (4)	79	
	堀内	北蒼	北大 (4)	3反E	
	堀内	北蒼	北大 (4)	3反E	

◇障害飛越競技90cm (小池杯)				減点
1位	梶田	リードオフリーダー	JRA札幌競馬場	0
2位	近藤	ヘルフォン	酪農学園大学	0
3位	鈴木	ヘルフォン	酪農学園大学	1
5位	武井	サランダー	北大 (3)	4
6位	森久保	北凌	北大 (2)	4
9位	尾崎	ヤスインディアン	北大 (7)	8

◇ビギナーズ障害飛越競技				減点
1位	寺下	ヘルフォン	酪農学園大学	0
2位	尾崎	ヤスインディアン	北大 (7)	0
3位	寺島	ファンキーブル	北大 (3)	0
4位	木村	ファンキーブル	北大 (3)	0
7位	馬場	サランダー	北大 (2)	0
12位	高島	ウツハイン	北大 (3)	33
13位	前野	北鈴	北大 (2)	44

- 三大学定期戦 (於 帯広畜産大学 5月12日)  
 参加選手 馬場 (2) 前野 (2) 森久保 (2)  
 優勝 帯広畜産大学  
 準優勝 酪農学園大学  
 3位 北海道大学

●第16回北海道新緑馬術大会 (於 ノーザンホースパーク 5月17、18、19日)

◇新馬障害飛越競技A				減点	獲得賞金
	今井	ハマヒルガオ	白井牧場不二ファーム	0	¥7,000
	川北	ハカタラダイス	ノーザンホースパーク	0	¥7,000
	尾崎	ヤスインディアン	北大 (7)	0	¥7,000
	今井	コタン	白井牧場不二ファーム	0	¥7,000
	川北	フサイトマフォーク	ノーザンホースパーク	0	¥7,000

◇一般馬場馬術第2課目競技				得点率
1位	岩野	アッシュコートン	ノーザンホースパーク	55.6%
2位	丑谷	アンブル	ノーザンホースパーク	51.9%
3位	山田	アレシヤホン	ノーザンホースパーク	49.8%
4位	前野	北蒼	北大 (2)	48.3%
6位	竹田	リクサステート	北大 (3)	45.1%
7位	寺島	ファンキーブル	北大 (3)	44.0%

◇一般馬場馬術第3課目競技 (A班)				得点率
1位	永見	クリアー	モゼライティングファーム	54.8%
2位	千野	驟澄	酪農学園大学	53.5%
3位	小林	ホーンシヤス	浦河乗馬クラブ	52.2%
4位	国井	北陽	北大 (4)	50.7%

◇一般馬場馬術第3課目競技 (B班)

順位	騎手	馬名	所属	得点率
1位	番場	アムシュー	ライディングファーム	59.6%
2位	星野	ルイ	星野Riding Club	59.0%
3位	藤田	ユーフォー	酪農学園大学	53.0%
12位	吉川	北鈴	北大 (4)	43.5%

◇L級A標準障害飛越競技 (一般の部)

順位	騎手	馬名	所属	減点	J.O 時間
1位	高野 (S.41卒)	カバトス	乗馬クラブ ムイ	0	45.70
2位	松井 (S.46卒)	岩竜	モセイティングファーム	0	46.89
3位	山口	フィールドサテ	ライディングファーム	0	47.79
9位	木村	北磐	北大 (3)	8	
11位	山口	北旋風	北大 (4)	8	
16位	堀内	北蘭	北大 (4)	16	
17位	寺島	北斗	北大 (3)	20	
18位	尾崎 (H.12卒)	キキキク	乗馬倶楽部メインフィーズ	20	
	松井 (S.46卒)	クニノホ	モセイティングファーム	2反E	
	川崎 (H.12卒)	シキガテン	乗馬倶楽部メインフィーズ	2反E	
	木村	北凌	北大 (3)	2反E	

◇一般M級C標準障害飛越競技

順位	騎手	馬名	所属	減点	J.O 時間
1位	高野 (S.41卒)	テキラ	乗馬クラブ ムイ	0	44.92
2位	犬伏	トラッシュ	ノーザンホースパーク	0	50.37
3位	川北	ブレイク	ノーザンホースパーク	0	54.08
open	山口	北旋風	北大 (4)	16	

◇L級B標準障害飛越競技 (一般の部)

順位	騎手	馬名	所属	減点	J.O 減点
1位	小山内	テヨホス	ノーザンホースパーク	0	0
2位	内布	リズムブルス	ノーザンホースパーク	0	0
3位	高島	テキラ	北大 (3)	0	0
7位	高島	ウツバイン	北大 (3)	0	10
8位	山口	北陽	北大 (4)	0	13
16位	加藤	北鈴	北大 (4)	8	
	竹田	リヂステート	北大 (3)	落馬E	

◇新馬障害飛越競技B

騎手	馬名	所属	減点	獲得賞金
林	ハロマ	札幌乗馬倶楽部	0	¥35,000
尾崎	ヤスノイン	北大 (7)	4	¥0

◇ビギナーズ障害飛越競技A

順位	騎手	馬名	所属	減点
1位	寺下	ベレフォン	酪農学園大学	0
2位	川島	ソラ	白井牧場不二ファーム	0
3位	堤	マイフェア	モセイティングファーム	0
open	尾崎	ヤスノイン	北大 (7)	3

◇L級スピードアンドハンディネス障害飛越競技 (一般の部)

順位	騎手	馬名	所属	成績時間
1位	番場	ルヴェ	ライディングファーム	82.55
2位	岩坪	岩竜	モセイティングファーム	82.92
3位	番場	アムシュー	ライディングファーム	87.26
	高野 (S.41卒)	カバトス	乗馬クラブ ムイ	2反E
	川崎 (H.12卒)	シキガテン	乗馬倶楽部メインフィーズ	2反E
	松井 (S.46卒)	クニノホ	モセイティングファーム	2反E
	木村	北凌	北大 (3)	2反E

◇一般C級スピードアンドハンディネス障害飛越競技

順位	騎手	馬名	所属	成績時間
1位	犬伏	トラッシュ	ノーザンホースパーク	69.18
2位	川北	ブレイク	ノーザンホースパーク	77.76
3位	高野 (S.41卒)	テキラ	乗馬クラブ ムイ	85.05

◇ビギナーズ障害飛越競技B				減点
1位	竹内	イスタンフラー	白井牧場不二ファーム	0
2位	門別	イスタンフラー	白井牧場不二ファーム	0
3位	菊地	ブ'リッテ	北星乗馬クラブ	0
6位	寺島	ファンキーパ'ブル	北大 (3)	0
open	堀内	ファンキーパ'ブル	北大 (4)	0

◇関門通過競技				減点
1位	春田	藤澄	酪農学園大学	0
2位	田中	藤澄	酪農学園大学	1
3位	松本	ロイヤルブル	酪農学園大学	10
4位	吉川	ヤスノインテ'イア	北大 (4)	10

●第37回北海道春季馬術大会 (於 ノーザンホースパーク 6月14、15、16日)

◇一般新馬障害飛越競技A				減点	獲得賞金
	林	バ'ロマ	札幌乗馬倶楽部	0	¥13,750
	犬伏	ロカビ'リーシガ'ー	ノーザンホースパーク	0	¥13,750
	川北	マジックシンガ'ー	ノーザンホースパーク	0	¥13,750
	川北	ハカバ'ラダ'イス	ノーザンホースパーク	0	¥13,750
	尾崎	ヤスノインテ'イア	北大 (7)	8	¥0

◇一般第2課目馬場馬術競技 (A班)				得点率
1位	吉田	テネリア	酪農学園大学	62.1%
2位	広瀬	アレシ'ヤホ'ン	ノーザンホースパーク	57.6%
3位	櫻木	トリッキ'シガ'ー	JRA日高育成牧場	57.1%
	佐賀	サラマンダ'ー	北大 (3)	失権

◇一般第2課目馬場馬術競技 (B班)				得点率
1位	中山	ホワイ'ブ'ーツ	ノーザンホースパーク	63.7%
2位	大城	ウイ'ルダ'ネス	オ'フルホ'スコミュニ'オン	62.2%
3位	小林	ホ'ンズシヤ'ンス	浦河乗馬クラブ	55.1%
8位	馬場	サラマンダ'ー	北大 (2)	51.3%
12位	寺島	ファンキーパ'ブル	北大 (3)	47.5%

◇一般第3課目馬場馬術競技				得点率
1位	星野	グ'リュ'ネバ'ルト	星野Riding Club	62.6%
2位	中山	テンマク'イン	JRA日高育成牧場	61.2%
3位	大林	ダ'イミツカ'ート	JRA札幌競馬場	60.4%
12位	国井	北鈴	北大 (4)	45.9%
16位	吉川	北陽	北大 (4)	42.0%

◇L級A標準障害飛越競技 (一般の部)				減点	J.O 時間
1位	加藤	ナ'ンシヤ'ルパ'トル	にいかつぶ'和'利乗馬クラブ	0	44.73
2位	相田	モンテ'グ'エルテ	モ'セラ'イ'テ'イ'ング'ファ'ーム	0	50.41
3位	久保田	エックス'オー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	51.87
5位	松井 (S.46卒)	タ'ニ'ホ'レロ	モ'セラ'イ'テ'イ'ング'ファ'ーム	0	56.05
7位	高野 (S.41卒)	ガルバ'ト'ス	乗馬クラブ'カム'イ	0	63.01
9位	米家 (H.8卒)	ダ'ン'シ'ング'マイ'テ'イ'ー	浦河高校	4	
10位	尾崎 (H.12卒)	キ'イ'ホ'ク	乗馬倶楽部'メイン'フ'ォ'ーズ	4	
14位	木村	ウ'ット'パ'イン	北大 (3)	4	
16位	米家 (H.8卒)	シ'ン'コウ'ラウ'ン	浦河高校	5	
28位	寺島	北斗	北大 (3)	23	
31位	堀内	北凌	北大 (4)	25	
32位	木村	北慧	北大 (3)	27	
	松井 (S.46卒)	岩電	モ'セラ'イ'テ'イ'ング'ファ'ーム	2反E	

◇一般M級C標準障害飛越競技				減点	J.O 時間
1位	柴田	柏嶺	帯広畜産大学	0	49.12
2位	大林	リ'ート'オ'フ'リ'ー'ダ'ー	JRA札幌競馬場	0	51.97
3位	門別	オ'レン'ジ'カウ'ンティ	白井牧場不二ファーム	0	55.73
	堀内	北蘭	北大 (4)	2反E	

◇一般M級B標準障害飛越競技				減点	
1位	川北	ワキンス	ノーザンホースパーク	0	
2位	大林	ダイミツハート	JRA札幌競馬場	5	
3位	岩坪	モンテウエルテ	モントレーンクファーム	6	
	高野 (S.41卒)	テキラ	乗馬クラブかみ	落馬E	
◇一般新馬障害飛越競技B				減点	獲得賞金
	林	イブキウッドマン	札幌乗馬倶楽部	0	¥13,750
	宮竹	トリキングダム	帯広農業高校	0	¥13,750
	尾崎	ヤスミンディアン	北大(7)	0	¥13,750
	犬伏	ロビリーシガー	ノーザンホースパーク	0	¥13,750
◇一般ツースター総合馬場馬術競技(A班)				得点率	
1位	箱崎	柏明	帯広畜産大学	52.8%	
2位	森	エールストライフ	酪農学園大学	52.8%	
3位	高橋	零	帯広畜産大学	52.0%	
6位	加藤	北鈴	北大(4)	48.1%	
10位	竹田	リッチステート	北大(3)	46.1%	
◇一般ツースター総合馬場馬術競技(B班)				得点率	
1位	小林	ホーンシヤンス	浦河乗馬クラブ	53.3%	
2位	堀内	北凌	北大(4)	53.1%	
3位	山口	北陽	北大(4)	52.3%	
4位	尾崎 (H.12卒)	行儀ーク	乗馬倶楽部メインフィールズ	51.9%	
5位	木村	北替	北大(3)	50.5%	
◇L級スピードアンドハンディネス障害飛越競技(一般の部)				成績時間	
1位	下田	エクスター	十勝柏友会乗馬クラブ	56.57	
2位	加藤	ナッシュパトル	にいかつぶね河川乗馬クラブ	58.87	
3位	遠藤	アブサン	十勝柏友会乗馬クラブ	59.71	
4位	米家 (H.8卒)	タソングマティール	浦河高校	59.96	
5位	米家 (H.8卒)	シンソウヴラウン	浦河高校	60.11	
10位	松井 (S.46卒)	タノホレロ	モントレーンクファーム	66.41	
20位	高野 (S.41卒)	カハトス	乗馬クラブかみ	74.33	
◇一般C級スピードアンドハンディネス障害飛越競技				成績時間	
1位	大林	リードオブリーダー	JRA札幌競馬場	62.01	
2位	大林	ダイミツハート	JRA札幌競馬場	62.85	
3位	川北	プロクレイマー	ノーザンホースパーク	63.62	
15位	高野 (S.41卒)	テキラ	乗馬クラブかみ	88.91	
◇L級B標準障害飛越競技(婦人の部)				減点	J.O 時間
1位	金井	柏嶺	帯広畜産大学	0	39.57
2位	村上	マスターフォックス	新冠乗馬クラブ少年団	0	48.27
3位	高橋	イスタフラー	白井牧場不二ファーム	0	50.35
6位	吉川	北蘭	北大(4)	0	56.01
◇L級B標準障害飛越競技(一般の部)				成績	J.O 時間
1位	富山	柏雲	帯広畜産大学	0	40.37
2位	佐藤	バインツァー	JRA日高育成牧場	0	42.60
3位	足立	柏海	帯広畜産大学	0	43.37
4位	武井	ワマンター	北大(3)	0	47.44
5位	前野	北斗	北大(2)	0	52.37
15位	国井	ワマンター	北大(4)	4	
16位	山口	北陽	北大(4)	4	
17位	加藤	北鈴	北大(4)	8	
22位	高島	ウッドバイン	北大(3)	28	
open	川崎 (H.12卒)	シルキーガーデン	乗馬倶楽部メインフィールズ	8	
	竹田	リッチステート	北大(3)		落馬E

●第74回北日本学生馬術選手権大会（於 ノーザンホースパーク 6月30日）

参加選手 加藤（4） 堀内（4）

◇一回戦

順位	選手	種目	所属	得点率
1位	堀内		北大（4）	51.1%
2位	福宮	7-ストレー	酪農学園大学	49.4%
3位	加藤		北大（4）	45.6%
4位	武田		北里大学	39.7%

◇準決勝

順位	選手	種目	所属	得点率
1位	畠山		帯広畜産大学	55.9%
2位	福宮	ウマケイノウ	酪農学園大学	53.2%
3位	岡田		岩手大学	52.3%
4位	堀内		北大（4）	50.2%

●第38回北日本学生馬術女子選手権

参加選手 国井（4） 吉川（4）

◇一回戦

順位	選手	種目	所属	得点率
1位	真島		酪農学園大学	52.7%
2位	坂本	メイキングテシオ	弘前大学	47.6%
3位	吉川		北大（4）	45.3%

◇一回戦

順位	選手	種目	所属	得点率
1位	村田		帯広畜産大学	53.8%
2位	国井	エフジヨウダン	北大（4）	53.2%
3位	西		北里大学	51.4%

◇準決勝

順位	選手	種目	所属	得点率
1位	村田		帯広畜産大学	55.2%
2位	箱崎	カンタロ-	帯広畜産大学	54.1%
3位	国井		北大（4）	51.7%
4位	西		岩手大学	45.8%

●第43回札幌市民体育大会（於 北星乗馬クラブ 6月30日）

◇市長杯争奪障害飛越競技

順位	選手	種目	所属	減点	J.O
1位	武井	サランダー	北大（3）	0	41.3
2位	堂下	キリ休ク	乗馬倶楽部メインワイズ	0	41.8
3位	林	パロマ	札幌乗馬倶楽部	0	46.6
4位	山口		北陽	0	47.3
5位	前野	サランダー	北大（2）	0	47.9

◇MC障害飛越競技

順位	選手	種目	所属	減点
1位	平島	初トスカイ	北星乗馬クラブ	0
2位	林	パブリック	札幌乗馬倶楽部	0
3位	尾崎（H.12卒）	キリ休ク	乗馬倶楽部メインワイズ	4
4位	山口	北旋風	北大（4）	8

◇ビギナーズ障害飛越競技

順位	選手	種目	所属	減点
1位	木村	ルージュエ	ライディングファーム	0
2位	寺島	ファンキーパブル	北大（3）	0
3位	中川	ルージュエ	ライディングファーム	0

◇ジムカーナ競技

順位	選手	種目	所属	減点
1位	阿部	北陽	北大（1）	0
2位	利根川	北旋風	北大（1）	0
3位	日野	北旋風	北大（1）	0
4位	前田	サランダー	北大（1）	0
6位	藤農	北陽	北大（1）	1
7位	坂本	サランダー	北大（1）	2
10位	橋場	北旋風	北大（1）	7
12位	小阪	北陽	北大（1）	24

●第27回北海道馬術競技 (於 ノーザンホースパーク 7月19、20、21日)

◇新馬障害飛越競技A

			減点	獲得賞金
今井	ハマルカオ	白井牧場不二ファーム	0	¥11,250
林	ハロマ	札幌乗馬倶楽部	0	¥11,250
川北	ウインザウイン	ノーザンホースパーク	0	¥11,250
川北	ハカタハラダイス	ノーザンホースパーク	0	¥11,250
尾崎	ヤスノインディアン	北大(7)	4	¥0

◇一般馬場馬術競技第3課目競技

			得点率
1位	満永	カンタロー	59.3%
2位	平木	ウァルメイノウ	58.4%
3位	川久保	柳イトネス	57.4%
10位	山口	北陽	53.8%

◇一般M級C障害飛越競技

			減点	J.O 時間
1位	大林	リードオブリーダー	0	36.68
2位	藤田	トカチアラス	0	45.80
3位	中山	サントロベツツ	0	47.07
4位	堀内	北園	0	落馬E
9位	山口	北旋風	8	
10位	高野 (S.41卒)	テキラ	8	
14位	寺島	北斗	16	

◇L級A標準障害飛越競技(一般の部)

			減点	J.O 時間
1位	楠木	ワンホイント	0	35.08
2位	番場	アイムシュア	0	36.46
3位	武藤	ハイングアー	0	37.26
5位	松井 (S.46卒)	タニホレロ	0	39.79
6位	松井 (S.46卒)	岩竜	0	42.59
11位	木村	北慧	0	53.73
14位	加藤	北鈴	4	
16位	尾崎 (H.12卒)	キイトク	4	
20位	山口	北陽	8	
23位	高野 (S.41卒)	加バトス	13	
	川崎 (H.12卒)	シキガーデン	2反E	
	竹田	リッチステート	落馬E	

◇新馬障害飛越競技B

			減点	獲得賞金
川北	ウインザウイン	ノーザンホースパーク	0	¥22,500
林	ハロマ	札幌乗馬倶楽部	0	¥22,500
尾崎	ヤスノインディアン	北大(7)	落馬E	¥0

◇一般C級スピードアンドハンディネス障害飛越競技

			成績時間
1位	川北	ワトキス	65.57
2位	川北	ブロクレイマー	68.79
3位	岩坪	モンテヴェルデ	70.18
5位	高野 (S.41卒)	テキラ	73.14
12位	山口	北旋風	111.32

◇L級スピードアンドハンディネス障害飛越競技(一般の部)

			成績時間
1位	楠木	ワンホイント	58.69
2位	村上	パブリック	62.39
3位	川久保	トカチアラス	62.64
10位	高野 (S.41卒)	加バトス	72.92
11位	松井 (S.46卒)	タニホレロ	74.82
14位	尾崎 (H.12卒)	キイトク	75.85
17位	松井 (S.46卒)	岩竜	79.12
18位	川崎 (H.12卒)	シキガーデン	82.97

◇L級B標準障害飛越競技(初心者一般の部)				減点	J.O 時間
1位	田中	ルヴェリエ	ライティングファーム7c	0	37.62
2位	内布	リズムブルース	ノーザンホースパーク	0	39.14
3位	田中	アイムシュア	ライティングファーム7c	0	40.30
	竹田	リッチステート	北大(3)	2反E	

●第38回北日本学生馬術大会(於 福島県原町市馬事公苑 8月9~15日)

◇二回走行障害飛越競技				一走目	二走目	総減点	J.O 時間
1位	萬	パワーステーション	東北学院大学	0	4	4	54.94
2位	畠山	柏嶺	帯広畜産大学	0	4	4	71.67
3位	柴田	柏嶺	帯広畜産大学	4	8	12	
4位	木村	ウッドバイン	北大(3)	4	8	12	
5位	白鳥	雪紫電	北里大学	8	4	12	
6位	梁川	ステーション	酪農学園大学	8	8	16	
7位	市橋	ウミニシ	酪農学園大学	12	8	20	
8位	藤田	ユフォー	酪農学園大学	8	23	31	
9位	近藤	チャレンジ8	酪農学園大学	12	20	32	
10位	高橋	グレースカップ	東北大学	20	16	36	
11位	堀内	北蘭	北大(4)	12	24	36	
16位	山口	北旋風	北大(4)	20	44	64	
	寺島	北斗	北大(3)	16	落馬E		

◇総合馬術競技				調教	耐久	余力	総減点
1位	柴田	柏嶺	帯広畜産大学	115	0	0	115
2位	近藤	チャレンジ8	酪農学園大学	116	0.4	0	116.4
3位	村田	柏朱鶴	帯広畜産大学	108	0	10	118
4位	畠山	柏嶺	帯広畜産大学	121	0	5	126
5位	藤田	ユフォー	酪農学園大学	118	0	10	128
6位	市橋	ウミニシ	酪農学園大学	128	0	10	138
7位	木村	北麓	北大(3)	119	27.6	0	146.6
	山口	北陽	北大(4)	106	108.4	棄権	
	竹田	リッチステート	北大(3)	119	0	失権	
	加藤	北鈴	北大(4)	122	0	失権	
	堀内	北凌	北大(4)	117	失権		
	山口	北旋風	北大(4)	143	失権		

◇L級A障害飛越競技				減点	J.O 減点
1位	齋藤	ステーション	酪農学園大学	0	0
2位	小島	ユフォー	酪農学園大学	0	0
3位	高島	ウッドバイン	北大(3)	0	4
6位	吉川	北蘭	北大(4)	38	

◇新人新馬障害飛越競技				減点
1位	鈴木	マリンドリフ	東北大学	0
2位	前野	北凌	北大(2)	0
3位	森久保	北麓	北大(2)	0
13位	馬場	北凌	北大(2)	8
19位	国井	北陽	北大(4)	16
25位	佐賀	北鈴	北大(3)	30
open	木村	ファンキバブル	北大(3)	0
open	寺島	ファンキバブル	北大(3)	0
open	高島	北陽	北大(3)	4

●第49回北海道体育大会兼第57回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会(於 ノーザンホースパーク 8月23、24、25日)

◇一般新馬障害飛越競技A				減点	獲得賞金
	川北	ハカバラダイス	ノーザンホースパーク	0	¥55,000
	尾崎	ヤスノインテアソ	北大(7)	4	¥0

◇成年国体総合馬術				調教減点	障害減点	総減点
1位	中山	ヨンポウ	JRA日高育成牧場	109.3	5	114.3
2位	大林	ダ'イミツカバ'ート	JRA札幌競馬場	106	28	134
3位	鈴木	ウメニキ	酪農学園大学	131	15	146
	尾崎 (H. 12卒)	キイホク	乗馬倶楽部メイフイ'ルズ	122	3反E	
◇一般第3課目馬場馬術競技				得点率		
1位	八戸	ジェラガ'イ	ノザンホ'スバーク	58.1%		
2位	平木	ヴァルメイノウ	ノザンホ'スバーク	57.8%		
3位	中山	テンマクイン	JRA日高育成牧場	56.2%		
10位	国井	ワラマンダ'ー	北大 (4)	48.7%		
◇成年男子標準障害飛越競技				減点	J.0 時間	
1位	畠山	柏嵐	帯広畜産大学	0	37.95	
2位	大林	リド'オブ'リーダ'ー	JRA札幌競馬場	0	49.39	
3位	柴田	柏嵐	帯広畜産大学	0	52.79	
	高野 (S. 41卒)	キークラ	乗馬クラブ ュイ	3反E		
◇成年女子標準障害飛越競技				減点	J.0 時間	
1位	寺下	ユーフォー	酪農学園大学	0	49.87	
2位	藤田	トカチ'トラス	十勝柏友会乗馬クラブ	0	53.91	
3位	米家 (H. 8卒)	シンコウ'ラウン	浦河高校	0	56.17	
9位	米家 (H. 8卒)	ダ'ソング'マイティ	浦河高校	4		
◇L級A標準障害飛越競技 (一般の部)				減点	J.0 時間	
1位	鈴木	ダ'イダ'イ	乗馬倶楽部メイフイ'ルズ	0	39.14	
2位	松井 (S. 46卒)	クニホ'レロ	マゼ'ライ'ング'ファーム	0	42.14	
3位	森	咲良	酪農学園大学	0	44.10	
4位	川崎 (H. 12卒)	シルキー'ゲ'デン	乗馬倶楽部メイフイ'ルズ	0	51.29	
7位	高野 (S. 41卒)	カハ'ド'ス	乗馬クラブ ュイ	4		
8位	松井 (S. 46卒)	岩倉	マゼ'ライ'ング'ファーム	4		
15位	吉川	北蘭	北大 (4)	16		
	武井	ワラマンダ'ー	北大 (3)	2反E		
	国井	ワラマンダ'ー	北大 (4)	2反E		
◇新馬障害飛越競技				減点	獲得賞金	
	尾崎	ヤスノイン'アイツ	北大 (7)	4	¥0	
◇ビギナーズ障害飛越競技A				減点		
1位	森田	キハ'クイン	浦河高校	0		
2位	藤巻	キハ'クイン	浦河高校	0		
3位	吾田	ミホ'カ'オー	静内農楽高校	0		
15位	木村	ヤスノイン'アイツ	北大 (3)	6		
16位	寺島	ファンキ'バ'ブル	北大 (3)	7		
20位	吉川	ヤスノイン'アイツ	北大 (4)	16		
◇成年男子スピードアンドハンディネス障害飛越競技				成績時間		
1位	大林	ダ'イミツカバ'ート	JRA札幌競馬場	73.85		
2位	畠山	柏嵐	帯広畜産大学	77.05		
3位	柴田	柏嵐	帯広畜産大学	83.32		
7位	高野 (S. 41卒)	キークラ	乗馬クラブ ュイ	105.64		
◇成年女子スピードアンドハンディネス障害飛越競技				成績時間		
1位	下田	トカチ'トラス	十勝柏友会乗馬クラブ	68.92		
2位	番場	アイム'シュ'ア'ー	ライ'ング'ファーム'7'セ	73.25		
3位	寺下	ユーフォー	酪農学園大学	75.05		
5位	米家 (H. 8卒)	ダ'ソング'マイティ	浦河高校	76.67		
10位	米家 (H. 8卒)	シンコウ'ラウン	浦河高校	81.58		

◇L級スピードアンドハンディネス障害飛越競技（一般の部）				成績時間
1位	遠藤	エックスオー	十勝柏友会乗馬クラブ	63.89
2位	田中	メイエル	ライディングファーム	67.24
3位	遠藤	トカフアラス	十勝柏友会乗馬クラブ	68.89
7位	高野 (S.41卒)	加バトス	乗馬クラブ 加イ	74.75
13位	松井 (S.46卒)	岩竜	モセイディングファーム	82.12
15位	川崎 (H.12卒)	シキガーデン	乗馬倶楽部メインフィーズ	83.60
	松井 (S.46卒)	タニホレ	モセイディングファーム	2反E
	吉川	北園	北大 (4)	2反E

◇ビギナーズ障害飛越競技B				減点
1位	森田	キナクイン	浦河高校	0
2位	滑水	藤華	酪農学園大学	0
3位	本巢	キナクイン	浦河高校	0
4位	寺島	ファンキーバブル	北大 (3)	0
6位	吉川	ヤスノディア	北大 (4)	0
12位	木村	ヤスノディア	北大 (3)	0

●第16回北海道秋季馬術大会（於 ノーザンホースパーク 9月27、28、29日）

◇新馬障害飛越競技A				減点	獲得賞金
	楠木	ウインザウイン	ノーザンホースパーク	0	¥100,000
	尾崎	ヤスノディア	北大 (7)	4	¥0

◇一般馬場馬術第2課目競技				得点率
1位	田中	アイムシュア	ライディングファーム	61.4%
2位	鈴木	イマジコンドル	酪農学園大学	55.6%
3位	岩野	エアージュダン	ノーザンホースパーク	55.2%
13位	寺島	ファンキーバブル	北大 (3)	40.8%

◇L級A標準障害飛越競技（一般の部）				減点	J.O 時間
1位	松井 (S.46卒)	岩竜	モセイディングファーム	0	50.24
2位	森川	リュートハーモニー	ノーザンホースパーク	0	55.15
3位	田中	アイムシュア	ライディングファーム	0	55.17
7位	尾崎 (H.12卒)	キキホク	乗馬倶楽部メインフィーズ	4	
23位	高野 (S.41卒)	加バトス	乗馬クラブ 加イ	27	

◇一般M級C標準障害飛越競技				減点	J.O 時間
1位	川北	ブレイク	ノーザンホースパーク	0	39.08
2位	久保田	エックスオー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	43.81
3位	高野 (S.41卒)	テキラ	乗馬クラブ 加イ	0	44.70
	木村	北麓	北大 (3)	2反E	
	松井 (S.46卒)	タニホレ	モセイディングファーム	2反E	

◇L級B標準障害飛越競技（初心者一般の部）				減点	J.O 時間
1位	濱口	勇人	ノーザンホースパーク	0	37.70
2位	飯野	リュートハーモニー	ノーザンホースパーク	0	37.98
3位	山下	柏海	帯広畜産大学	0	42.76
7位	森久保	北旋風	北大 (2)	8	
8位	武井	北凌	北大 (3)	8	
	高島	北陽	北大 (3)	2反E	
	寺島	ファンキーバブル	北大 (3)	2反E	

◇一般団体（リレー）障害飛越競技				成績時間
1位	村上	カクワ	札幌乗馬倶楽部	95.07
	林	アレストローク		
2位	番場	アイムシュア	ライディングファーム	103.56
	山口	フィールドサテ		
3位	西原	インターアップター	北星乗馬クラブ	103.64
	平島	ホワイトスカイ		
4位	高野 (S.41卒)	加バトス	乗馬クラブ 加イ	105.00
	守山	テキラ		

◇新馬障害飛越競技B				減点	獲得賞金
	楠木	カサハダンディ	ノーザンホースパーク	0	¥22,500
	窪田	フサイトマホク	ノーザンホースパーク	0	¥22,500
	尾崎	ヤスノインディアン	北大 (7)	4	¥0

◇ビギナーズ障害飛越競技L 1 A				減点
1位	鈴木	咲良	酪農学園大学	0
2位	本田	シュバリエ	モセウイングファーム	0
3位	深田	アブサン	十勝柏友会乗馬クラブ	0
13位	高島	ファンキーブル	北大 (3)	25

◇ビギナーズ障害飛越競技L 2 A				減点
1位	伊藤	チンパルト	にいかつぶ和利乗馬クラブ	0
2位	大久保	シュル	乗馬倶楽部メインフィース	2
3位	岩野	勇人	ノーザンホースパーク	4
4位	橋場	リッパステート	北大 (1)	4
5位	利根川	北替	北大 (1)	11

◇L級スピードアンドハンディネス障害飛越競技 (一般の部)				成績時間
1位	富山	柏海	帯広畜産大学	66.91
2位	相田	モンテエルク	モセウイングファーム	67.60
3位	田中	アムシュー	ライディングファーム7セ	67.64
7位	高野 (S. 41卒)	カハドス	乗馬クラブカミ	72.40
11位	松井 (S. 46卒)	岩竜	モセウイングファーム	76.38
15位	木村	北替	北大 (3)	83.02
16位	尾崎 (H. 12卒)	キヨホク	乗馬倶楽部メインフィース	84.38

◇一般C級スピードアンドハンディネス障害飛越競技				成績時間
1位	高野 (S. 41卒)	テキラ	乗馬クラブカミ	71.62
2位	久保田	エックスオー	十勝柏友会乗馬クラブ	71.66
3位	川北	ブレイマ	ノーザンホースパーク	73.15

◇一般トップスコア競技				得点
1位	下田	エックスオー	十勝柏友会乗馬クラブ	860
2位	松井 (S. 46卒)	タニホレロ	モセウイングファーム	520
3位	高野 (S. 41卒)	テキラ	乗馬クラブカミ	450
4位	高野 (S. 41卒)	カハドス	乗馬クラブカミ	420

◇ノーザンカップファイナルチャンピオン戦				一走目	二走目	総減点	J.O 時間
1位	尾崎	ヤスノインディアン	北大 (7)	0	4	4	43.29
2位	川北	カサハラダイス	ノーザンホースパーク	4	0	4	52.93
3位	楠木	ウインザウイン	ノーザンホースパーク	8	4	12	

◇ビギナーズ障害飛越競技L 1 B				減点
1位	井上	シュバリエ	モセウイングファーム	0
2位	堤	タニホレロ	モセウイングファーム	0
3位	中村	ロイヤルブルー	酪農学園大学	0
open	寺島	ファンキーブル	北大 (3)	0

◇ビギナーズ障害飛越競技L 2 B				減点
1位	大道	ヤマタホソバ	帯広畜産大学	0
2位	日野	ウランダー	北大 (1)	0
3位	中垣	ルグエリエ	ライディングファーム7セ	0
4位	前野	ファンキーブル	北大 (2)	0
6位	坂本	ウランダー	北大 (1)	6
8位	前田	ウランダー	北大 (1)	15

●第23回山下杯・河田杯記念馬術大会（於 酪農学園大学 10月14日）

◇M級C標準障害飛越競技				減点	J.O 時間
1位	吉田	ウエニシ	酪農学園大学	0	50.33
2位	齋藤	ユウハク	酪農学園大学	0	68.49
3位	方釋	チャレンジ8	酪農学園大学	4	
6位	竹田	北旋風	北大(3)	8	
7位	森久保	北旋風	北大(2)	31	
8位	武井	サランダー	北大(3)	40	

◇L級A標準障害飛越競技				減点
1位	市橋	タイトル7	酪農学園大学	0
2位	森	咲良	酪農学園大学	0
3位	西	エレストクワイ	岩手大学	0
	佐賀	サランダー	北大(3)	落馬E

◇ジムカーナ競技				減点
1位	荒川	駿華	酪農学園大学	0
2位	高橋	テリオ	酪農学園大学	0
3位	河合	ムヒンク	帯広畜産大学	0
8位	小阪	サランダー	北大(1)	0
9位	橋場	サランダー	北大(1)	0
11位	日野	北旋風	北大(1)	4
12位	前田	北旋風	北大(1)	4

●第24回札幌地区乗馬大会（於 北星乗馬クラブ 10月14日）

◇小障害飛越競技B（一般の部）				減点	J.O 時間
1位	風間	インターブター	北星乗馬クラブ	0	48.9
2位	森下	インターブター	北星乗馬クラブ	4	
3位	森下	カスチロー	北星乗馬クラブ	4	
4位	前野	北鈴	北大(2)	14	

●平成14年度OB戦（於 北海道大学 10月20日）

◇部班  
北旋風：平野（北水） サランダー：市川（S.38卒） 北凌：吉川（H.15卒） 北陽：国井（H.15卒）

◇M級C標準障害飛越競技				減点
1位	堀内	北蘭	OB（H.15卒）	0
2位	尾崎	北旋風	OB（H.12卒）	16

◇L級A標準障害飛越競技				減点
1位	高島	エルグレイ	北大(3)	4
2位	武井	北凌	北大(3)	8
3位	森久保	北旋風	北大(2)	12

◇L級B標準障害飛越競技				減点
1位	竹田	リッチステート	北大(3)	0
2位	寺島	ファンキーパブル	北大(3)	4
3位	平野	北旋風	北大水産馬術部	12
	高島	北陽	北大(3)	落馬E

◇80cmクラス障害飛越競技				減点
1位	阿部	北凌	北大(1)	0
2位	吉田	サランダー	北大水産馬術部	0
3位	坂本	サランダー	北大(1)	0
4位	中田	リッチステート	OB（H.9卒）	0
5位	前野	北鈴	北大(2)	0
6位	高島	北陽	北大(3)	4

◇ジムカーナ競技				減点
1位	利根川	北旋風	北大 (1)	0
2位	国井	リッツステート	OB (H. 15卒)	0
3位	小阪	北凌	北大 (1)	0
4位	国井	北凌	OB (H. 15卒)	0
5位	前田	北鈴	北大 (1)	0
6位	寺島	ファンキーパブル	北大 (3)	0
7位	浜田	北陽	OB (H. 13卒)	0
8位	栗原	ファンキーパブル	OB (H. 12卒)	0
9位	日野	北鈴	北大 (1)	4
	日野	北陽	北大 (1)	3反E

◇リレー競技				成續時間
1位	尾崎 (H. 12卒)、川崎 (H. 12卒)、栗原 (H. 12卒)	ファンキーパブル		222.98
1位	加藤 (H. 15卒)、国井 (H. 15卒)、吉川 (H. 15卒)	北陽		222.98
3位	木村 (3)、佐賀 (3)、馬場 (2)	サランダー		237.27
4位	市川 (S. 38卒)、竹本 (H. 13卒)、浜田 (H. 13卒)	リッツステート		253.84

●モモセダービー (於 モモセライディングファーム 10月27日)

◇ジムカーナ競技				減点
1位	泉谷	ドール	盤溪乗馬クラブ	0
2位	泉谷	サラ	盤溪乗馬クラブ	0
3位	阿部	ゼットマクイン	北大 (1)	0
4位	坂本	ゼットマクイン	北大 (1)	0
	前田	マイフェアレディ	北大 (1)	8
	日野	マイフェアレディ	北大 (1)	落馬E
	小阪	マイフェアレディ	北大 (1)	落馬E
	利根川	ゼットマクイン	北大 (1)	経路E

◇L A競技				減点
1位	本田	タノボレ	モセライディングファーム	0
2位	本田	シムパリエ	モセライディングファーム	2
3位	木村	ルグエリエ	ライディングファームフセ	4
8位	森久保	北旋風	北大 (2)	14
11位	寺島	ファンキーパブル	北大 (3)	18
13位	前野	ゼットマクイン	北大 (2)	74
	佐賀	マイフェアレディ	北大 (3)	3反E
	馬場	マイフェアレディ	北大 (2)	3反E

●全日本学生賞典馬術競技会 (於 JRA馬事公苑 11月10~17日)

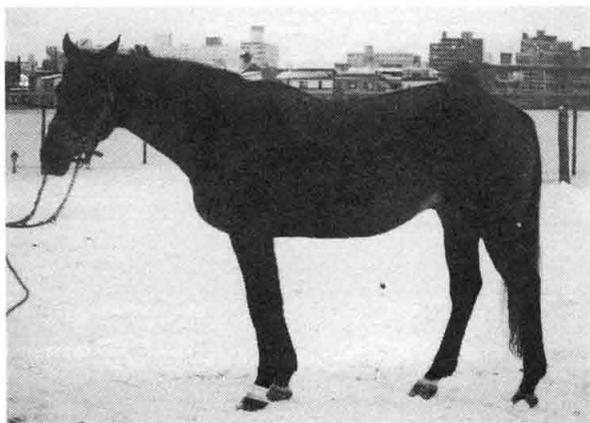
◇第52回全日本学生賞典障害飛越競技会				一走目	二走目	総減点	J.O 時間
1位	戸本	アホロギザンズ	明治大学	0	0	0	57.27
2位	笹森	シルバークラネット	東京農業大学	0	0	0	58.18
3位	藤山	ライバークセル	同志社大学	4	0	4	
	木村	ウットパイン	北大 (3)	3反E			
	堀内	北蘭	北大 (4)	3反E			

◇第45回全日本学生賞典総合馬術競技会				調教	耐久	余力	総減点
1位	相田	ミスターグリーン	専修大学	74	11.6	5	90.6
2位	岡部	ハリストロンク	東京農業大学	91	0	0	91
3位	池添	明商	明治大学	81	6.4	5	92.4
29位	木村	北暮	北大 (3)	133	48	0	181

●第25回国立大学対抗馬術大会 (於 群馬県馬事公苑 12月15日)

参加選手 前野 (2) 森久保 (2)  
優勝 北海道大学  
準優勝 千葉大学  
MVP 森久保

## 🐎北凌(ハギノレジェンド)🐎



駒 サラ 鹿毛  
昭和62年4月10日生  
北海道浦河郡浦河町産  
父 ハギノカムイオー  
母 ハギノコトブキ  
競走名 ハギノレジェンド  
愛称 レジェ、レジェンド  
平成4年6月12日入厩

調教報告

堀内 太郎

レジェンドのチーフになったのは5月の終わり頃で、それまでは騎乗の機会がそんなにあったわけではなかったのですが、どのように乗ったらよいかとまどいがありました。ここ数年の北日学の結果から余力審査がネックになっているのは間違いなさそうだったので、余力に向けた障害練習を日々の騎乗の中心に添えました。過去の騎乗者のビデオを観たり、実際に他の人の騎乗を見て思っていた感想から、そして中野善弘氏のクリニックを受講したことで、とにかく体を使って飛越させるということに留意して騎乗することにしました。馬が焦りだした時、どうしてもハミにつかかって、体を硬くし、フラットに飛ぶ傾向があり、それが逃避や落下を生む原因になってしまいました。

- ・ハミは軽いコンタクトで持っておき、減却の時ははっきりと短節に拳を使う。
- ・減却の時は脚をしっかりと使い、手綱にぶらさがらなければならないようにする。
- ・リズムよくゆったりとした大きな駈歩をさせる。

これらのことを徹底して騎乗しました。

その結果、単独の障害では体を使ったいい飛越をさせることができるようになりました。経路では、人の飛越後のバランスの戻りの遅さ、騎座の甘さといった技術の未熟さによって、MCレベルを過失なくまわってくるような段階には達しませんでした。騎乗の方向性は間違っていなかったと思います。

調教審査の方は、騎乗者の技術がある程度のレベルに達すれば、北日学ではそこその点がとれると思います。一番大切なのは、騎座の安定ではないかだと思います。より高得点をめざすには、速歩区間ほど点がのびない駈歩区間をどれだけうまくこなすかということ

が必要だと思います。直行進で腰が内に入る、下方移行がきれいに決まりづらい、反対駆歩でバランスがくずれやすい、などが僕が感じた難しい点です。

耐久審査つまり野外に関しては、福島のコースでは、それほど難しさは感じませんでした。しかしレジェンドは障害そのものよりも、障害の設置されている場所の状況などによって予想外の反応を示すことがあるので、能力に信頼をおきつつ、突発的な行動に対処できるようにしておく必要があると思うし、馬がひどい興奮状態におちいった時でもこちらの指示に従うように日頃からレジェンドとの信頼関係を高めておかなければならないと思います。

レジェンドは、人が要求されるレベルが高い馬だと思いますが、その能力をいかすことができれば、全日学レベルでも十分通用すると信じているので、今後の活躍を期待しています。

馬にヒトに!  
doriola.co.jp

株式会社 ドリオラ  
東京・新宿



## 北旋風(トルネードダンサー)



駒 サラ 鹿毛  
平成2年3月26日生  
北海道沙流郡門別町産  
父 アスワン  
母 ティージーブイ  
競走名 トルネードダンサー  
愛称 トル、トルネード  
平成5年9月4日入厩

### 調教報告

山口 剛司

#### <北日までの過程>

去年乗ってきたこと、ドリームとの2頭乗りという事もあって、冬の間トルネードにはあまり時間を割かなかった。冬が終わり、雪も解け半澤杯に向けて障害を始めたのだが、どうもしっくりこない。障害を跳んで当たり前だと思い込み人も馬も自信、余裕ともになく障害をやる事などによって人馬の信頼関係を壊してしまった。それからはなんとか壊れた信頼関係を回復しようと乗ってきて、N.H.P の試合で“調子いいね”と言われるようにはなってきた。

北日に行く前の最後の経路廻りで本番を想定し一昨年前の北日の経路を並べ、高さもMAX130cmまで上げて経路走行をした。トリプルで脚のコンタクトが甘かったせいで一反抗はされたが落下もせずに廻ってこれた。

北日に行く前の状態としては、それなりにいい状態だったと思う。

#### <北日での失敗について>

準備馬場が狭いという事もあり拳が強くなってしまい、今までと違う乗り方になっていた。だが、前進氣勢はすごくありフレンドリーは少しかかりぎみだったものの、悪くはなかった。

一走目、これはいけるという状態でFWを終え、出番が2番目で下見をし、トルにまたがったとき、下見前に比べ障害に対するの氣勢がいまひとつ足りない感じになっていた。そこでなんとか状態を戻そうとしたものも変わらず結果5落下。二走目では一走目の失敗をひきずり2反9落下という結果だった。完全に信頼関係を壊してしまった事が主な原因

だと思う。

馬と畑の有機的關係の確立を！

野菜の新しい生産と流通を模索する。

上田農園

上田正徳



〒003-0876 札幌市白石区東米里2072-1

TEL 011-874-3272

FAX 011-873-2307

CELLULAR 090-3-891-4988

ファームレストラン ・ うえだ

## 🐎北鈴(スズロード)🐎



騾 サラ 鹿毛  
平成4年3月31日生  
北海道沙流郡門別町産  
父 スズマツハ  
母 メイワレディ  
競走名 マイネルソニック  
愛称 スズ、スズロード  
平成8年7月20日入厩

### 調教報告

加藤幸作

去年に引き続いてスズロードに乗り、今年はなるべく人と馬とがしっかりと意思の疎通をしてなるべくいい状態で大会に臨めるようにと思ってやりました。この馬は結構精神的な波があって、休み明けなどは口を突っ張って人の扶助に反抗したりとなかなかうまくいかない日もありました。やはりそのときに人が一緒になってけんかしたりいっぱいになって荒い乗り方をするともうどうしようもなくなってしまうのでそんなときほど準備運動から丁寧にやっていかなければいけないということに気付かされました。大会でも準備馬場ではほかの馬が走り回っているところだと馬が興奮してしまい準備運動でほぐすことができず、障害も詰まりながら飛んでいるのに人があせってしまい、ただ怒って追っただけでばかりしていたことが多々ありました。

北日ではまず馬を信じることに、次に人が馬以上に緊張して馬と人の気持ちがばらばらにならないこと、

そのうえで丁寧に丁寧に準備運動をするようにと考えました。調教では強引に口を下げさせようとせずに脚を使ったつめ伸ばしを中心に、馬が理解をして収まってくるのを待つようにして反応は結構いい状態だったのですが、少し早く出しすぎてしまい、出番までに時間が空いてしまったため、首があがったままでまわってしまい、点数があまりつきませんでした。また、前々から苦手だった横運動やシンプルチェンジがよくなく、もっと練習しておくべきだったと思います。やはりできることを繰り返すのではなく、練習からできないことを克服していこうとしなければいけないと思います。あと馬場をまわるときに移行に気をつけないといらいらしてくるので、特に常歩への移行のときに前を引っ張らないよ

う、すつと許すことが大切だと思います。

耐久は基本的にスズはいけると思います。今年は準備運動からしっかり前を出して、なるべく前で踏み切るようにさせて、コースに入ったら抑えるところは抑え、出すところは出して障害にいいペースで向かうことを意識してまわりました。途中何度か人が甘かったところはあったのですが、馬が助けてくれ、満点で帰ってこれました。走っていても常に馬を人の扶助の中においておけばすぐ抑えられるし、馬を信じて少し前にだし気味でいけば帰ってこれると思います。

余力がこれからの課題となると思いますが、今回は耐久の疲れで前に出なく、足も上がらなかった事と、高さが高かったことで人があせってしまい、丁寧な経路走行を心がけられなかったのが失敗の原因だともいますが、三反してしまいました。まず余力もほとんどMCといっしょなので北日前にMCを帰ってこれるぐらい馬と人に余裕がないといけないと思うし、暑いとすぐにばててしまうのでそこをもっと考えてやるべきだったと思います。馬的には馬体も大きいので楽に前を出してやって、いいペースでしっかりとしたアプローチで障害に向けてやればMCも帰ってこれると思います。あと回転で外に膨れやすいのでしっかりと外方中心の回転を心がけて練習するといいと思います。

2年間スズロードにのせてもらって、やはり馬術は乗り物に乗ってやるのではなく、馬という生き物にのるわけで、馬との意思の疎通が成り立っていないとだめだと痛感しました。普段から馬のことを考え、馬と対話しながら乗るように気をつければ、いざというときに馬が助けてくれると思います。これからスズが念願の権利に向かってがんばってくれることを期待します。

創業86年

旗の専門商社

ヤマ レイ

山 禮

 (代) 241-1641 FAX 281-0419

E-mail: yamarei@siren.ocn.ne.jp | P | 駐車場あります。札幌市中央区南1条西7丁目 山禮ビル4F

## 北陽(ドリームグリーン)



駒 ア・ア 鹿毛  
平成8年5月8日生  
青森県八戸市産  
父 カツラギセンブー  
母 ドリームグリーン  
競走名 なし  
愛称 ドリーム、ドリ  
平成10年7月20日入厩

### 調教報告

山口 剛司

主にやってきたこと

#### ①後肢を良く動かす事

まあどの馬でもあたりまえのことだと思うが、昔からこの馬は後肢を特にひきずるとい  
う事を聞いていたし、そういう運動をやっていけば腹も引き締まり、筋肉もついていく  
と思ひ特に強く意識した。

#### ②ハミと脚との関係を作る

昔はそれなりに馬場のできる馬だと思っていたが、そんな事はなくハミと脚の関係が  
できておらず、それを作るように N.H.P 合宿に行った時に注意された。そのとき言わ  
れた事は“外方拳はしっかりコンタクトをとり、内方拳を下に引っ張ってでもいいか  
ら首をゆずらせて、ゆずったら内方を楽にしてやる。当然脚でどンドン前に出しながら”

まだまだこれからも課題

#### ③野外の馴致

福島に連れて行った。一応うちの馬場の外にコフィンを作り馴致していたが、やはり  
最初はコフィンをそうとう嫌がった(穴が嫌いらしい)が初日、2日目、3日目と最  
初は跳び方が良く分からなく、無駄に後肢を高く上げて跳んだりしていたが、みるみ  
るキレのある良い飛越をみせるようになった。

#### ④障害をリズムよく通過させる

コンビネーション通過時のリズムが悪かった。まず、踏切りのまたぎ方が悪かったの

で、何度もやる事でこれを憶えさせた。コンビネーションの最中はリズムが崩れないように脚を障害前、中、後でしっかりはさみ、障害の1つ1つで脚を使うように意識したら良くなった。

最後に、今年は無理だという声の一部ではあったようだが余力はでなかったものの北日デビューを果たし、調教では1位をとり、耐久も反抗はしたが帰ってくることができたので良かったと思っています。まだまだ、のびる馬なので次のチーフも頑張ってください。

The word "POBY" is written in a bold, black, sans-serif font with a grainy, stippled texture.The word "skin" is written in a bold, black, rounded font with a grainy, stippled texture.The word "Aachen" is written in a bold, black, sans-serif font with a grainy, stippled texture.The word "Aachen" is written in a clean, black, sans-serif font.

欧州乗馬用品専門店



(株) ライトスポーツ・ルウム

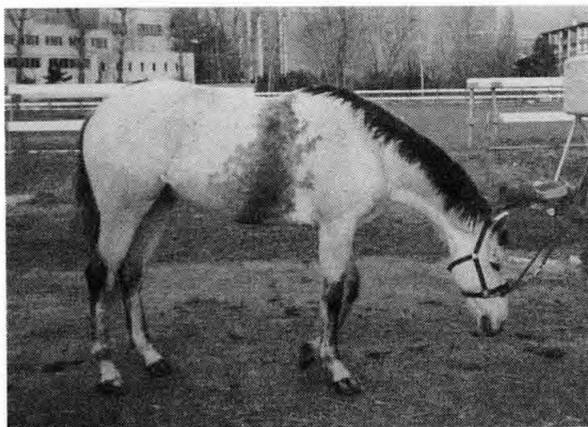
T 550-0015

大阪市西区南堀江4丁目2-3

TEL 06-6533-0777 Fax 06-6533-0778

<http://www.ruhm.co.jp>

## 北彗(メジロゲネシス)



駒 サラ 芦毛  
平成5年5月30日生  
北海道伊達市産  
父 メジロティターン  
母 メジロマリア  
競走名 メジロゲネシス  
愛称 ゲネ、ゲネシス  
平成10年11月8日入厩

### 調教報告

木村 滋之

この1年間、僕がゲネに騎乗してきた結果は、総合で北日学7位、全日学29位。結果から見ればデビュー戦にはなかなかの成績だが、どちらとも調教審査では馬が緊張して集中せずにバタバタ、耐久では1反抗、余力こそ満点ではあるが120cmのコースを帰ってきたのは北日学の1回だけ。まだまだ不安要素は多く、とてもよい総合馬に育ったとは言えない。ついでに緊張して背中を張ると思いきり跳ねる事を覚えてしまい、安心して下級生に乗せられる馬ではない。実際に、下級生を何人も病院送りにしている非常に危険な馬であり、この先、性格に改善が見られなければ、離厩を考えなくてはならないと思う。と、厳しいことを書いたが、幸いあともう1年ゲネに乗ることが出来るので、何とかゲネが北大に長く残れるようしつけていきたい。とりあえず、この1年間どんなことをしてきたか、書こうと思う。

僕が尾崎兄からゲネの調教を引き継いだのは、3月。1年生の秋から、春先に放牧でラチ際の雪の締まっていないところに後肢を突っ込んで傷めるまで、尾崎兄の指導のもとで騎乗していたので、ちょうど1年ぶりにゲネの調教に関わることとなった。この馬はとにかく怪我が多く、放牧や曳き運動などで暴れたりしてよく踏みかけをする。怪我による長期馬休が多く、そのために今まで何度も調教が中断され、9才にしてようやく北日デビューを果たした。

3月のはじめにノーザンにゲネをつれて合宿に行った。はっきりいって、ノーザンではまともな運動が出来ず牧練では周りに迷惑をかけた。ゲネにかかわらず、ノーザンではスズやユウグレイ等も興奮して、かなり人馬共にテンパった練習となった。北大では部班も

やっていないのに、いきなりノーザンの狭いインドアで多くの馬がひしめき合う中で落ち着いて運動しろというのが無理なのかもしれないが、あまりにもひどかった。特に興奮してくると、ハミを嫌がり、巻き込んで、しまいには頭を振るようになる。こうなると手の施し様がなく、いったん放棄手綱にして、落ち着けるしかなかった。川北さんに乗ってもらったが、「ハミが嫌いで、すぐにハミをはずす」そう。「フラットワークではハミを嫌がるのを無理に拳を固定して押さえつけずに、まずはどンドン前に出してハミを受け入れさせること。そして、図形をしっかりと描かせること。」を、言われた。

当時はわからなかったが、いつもと違う環境で運動するとき、その環境になれて納得するまでは焦らずに、普段より要求を低くして、基本的な約束事の確認（輪乗りでの常歩一停止、速歩一常歩の移行、前肢旋回など）をして、馬を誉めながらリラックスさせて次第に集中させ、折り合いをつけていくことが大切。けっして、力づくで押さえ込もうとしてはならない。この、要求を下げて誉めてやるということはさまざまな場面で必要となってくるが、現役にはなかなか思いつけないことのような。無理強い馬の信頼をなくすだけである。

ノーザンから帰ってきてからは、川北さんに言われたように、頭は気にせずにとどンドン前を出て乗るようにした。とても重かったので、打脚などを使って、脚に対して前にできるようにした。そうして乗っているうちに、馬もだいぶハミに落ちつくようになってきた。

雪も解けて、半澤杯に向けてコンビネーションや、拾い飛びを中心に障害練習を進めていったが、試合前の経路廻りでは飛んだ後に跳ねる跳ねる。そして、本番の複合の障害も、結果こそ1落下だけではあったが、跳ねる走るわで全く手の内に入っていなかった。その後の新緑でも半澤杯ほどひどくはなかったが、あまり手の内に入っていなかった。

このころは、飛越後に跳ねるのはそのうちなくなるだろうとあまり気にしていなかったが、甘かった。もともとゲネシスはバランスが前のめりで、駈歩でもなかなか起きて来ず、またこのころは僕も2ポイント主体で乗っており、特に障害前で突っ込む癖があったため、馬の飛越が苦しくなり、のめったまま着地するため、苦しくて跳ねるようになった。そして苦しくなったら跳ねるということ覚えてしまった。特に、ノーザンのウッドチップでは、よく跳ねた。コース走行など飛んだ後に次があるときは、着地でも起きてくるのだが、単一障害やコンビネーション等を飛ばせているときは、どうしても着地でめってしまう。このことから、コンビネーションの飛越後はすぐにとめずに、もう一度人に集中を戻すように、輪乗りをしてから止めるようにした。コンビネーション飛越後に回転して、単一障害を飛ぶというのも良かったかもしれない。

6月の榎稜祭期間を利用して、原町市馬事公苑に馴致に行った。やはり、山場はコフィンであった。A 障害を飛んで、下って乾藁があると、馬はそのまま穴に落ちこちることを想像するのか、たとえB 障害の乾藁だけで飛んでいても、なかなかA 障害からは飛ばうとしない。1度通してしまい馬が飛び方を理解しても、次の日にはまた飛ばなくなっていたりすることもある。今まで上がることを教えられてきた馬にとって、下がる障害というのは

理解しにくく、また怖いものである。普段からバンケットや馬場の周りの斜面などを利用して、下る練習も頻繁にしておくべきである。馬事公苑のコフィンが乾豪にバーがかかっている分簡単で、むしろ原町のコフィンはまだエンジンのかかりきっていない4番障害で、逃げやすいという点でもかなり難しいと思う。実際に、馴致から帰ってから馬場の外に皆で頑張っただけでコフィンを作って練習した。コフィンを馴致する場合はまずB障害の乾豪から飛ぶようにして、馬が自分から向かうようになったら、A障害から通してみる。どんな馬でもいきなり通そうとするのは、無駄な反抗をさせるリスクが大きいのでやめたほうがいい。また、A障害から通す場合も、ただ勢いだけで向かっても反抗されるのがオチで、人間は身体をおこして、両手両脚でしっかりと馬を起こしてこなければならぬ。野外の障害については、ただボリュームだけの障害なら勢いだけで通過できるかもしれないが、通過するのに技巧を要するものは、そのときは勢いで飛んでも馬が理解していなければ、本番では止まるかもしれない。最初は勢いをつけたり他の馬につけることは有効であるが、それができたら最終的には1頭である程度ゆっくりした歩度で向かって、馬に考えながら飛ばせなければならない。もちろん本番ではエンジンを切らさぬよう勢いよく向かわなければならないが、最終日に通して回ったが、他の馬が満点で帰ってくる中、ゲネシスだけがコフィンとスキージャンプで反抗した。コフィンは馬に持ってかれたまま起こしきれなかった。スキージャンプでは3段階降りることを考えて、ゆっくり向かってそのまま降りるだろうと思っていたら、降りずに止まった。人が気を抜いた。後で、川崎兄に付いてもらいスキージャンプを練習したときは、まず脚を使わずに速歩でゆっくり向かってそこで止まったら鞭で怒る。再度同じようにプレッシャーをかけずに向かうと次はちゃんと止まらずに降りてくれる。こうして、プレッシャーをかけずとも障害に向かったら通過しなければならないということを馬に分からせる。もちろん今までに反抗しないで飛んでいた障害だからこそ出来ることで、本当に馬が怖がっているなら逆効果となる。怖がっているものに対して、鞭などを使って無理やり飛ばそうとすると、その障害に対してさらに恐怖心を深めることになり、また人間への信頼もなくす。わがままなのか本当に怖がっているのかの判断は難しいが、とても重要なことで絶対に失敗してはならない。

馴致は時間や馬の気力、体力、肢のコンディションが許す限り納得がいくまでとことんやるべきである。特に福島なんて一回しか来れない訳で、遣り残した事があると、後で後悔することになる。この馴致でも前回原町で北日学をやったときに池の前についたてがあったことから、ついたてを持ってきて練習しようかという意見もあったが、持ってくるのはかなりの労力で、今年も同じようにあるか分からないということで、結局池は池だけ入って終わりにした。結果、本番でゲネシスは止まり、トルネードは人馬転した。ついたてがあると池の淵が見えなくなり、着地地点の水深など馬が想像しにくい。実際、ゲネは止まったときに確認したのか、向かいなおして飛んだときは、小さく飛んで池の淵に着地した。あの時やっておけばよかったと思っても後の祭りである。もともと60万円もかけているんだから、やれることはとことんやるべきであった。

春季大会ではレンガで止まった。それまで馬場の障害で止まることはまずなかったので少しショックだった。前の障害を飛んで右にかなり大きく回っての障害で、それまでの障害で何度も突っ込んで苦しい飛越をさせ、レンガもなんとなく惰性でいつってしまったのがいけなかったのだが、いまいち納得がいかなかった。特にレンガを見て止まった訳でもない。その答えは7月の公認の一週間前に行われたクレインOPの中野善弘さんのクリニックで明らかになった。

クリニックは3日間連続で、コースを走行するにあたって、「リズムとライン」を大事に障害と障害の間でいかに次の障害を馬が飛びやすいように誘導してやるかということを練習し、初日は問題なくこなせたのだが、2日目に経路走行をしたときに三段を大きく飛んで人がついていけず、その後の右回転の垂直で止まった。もう一度三段から向かいなおしたが、また垂直で止まった。そのときに中野さんは「その馬は、障害前で左によれる癖がある。左によれることで飛越のためのエネルギーを逃がしてしまい、飛べなくなる。特に右回転では、障害前で左によらさないように右拳を開け。」といわれた。確かにもともとコンビネーションなどやっているとして左へよれるし、今までで止まった場面を思い起こしてみると、ほとんど左によれながら止まっている。実際にその後、右拳を開きながら飛ぶようにすると、全く止まらなくなった。このとき初めて、真直性の重要性を認識できるようになった。本当にこのクリニックは目から鱗もんであり、中野さんにはただただ感謝するのみである。

その後の公認も必殺「右の開き手綱」を使い、LAを満点で帰ってこれた。もう止まる気はしなかった。それまでは踏み切りが近くなったら、ボリュームのある障害は飛べないという意識があったが、そうではなくて近くに入ったときに左によれるから飛べないのであって、よらさなければある程度までは近くへ入っても飛べるのである。クリニックから、常に右を開いて左によらさない様にして障害を飛んでいたのも、北日学前後にはもう左による癖はなくなっていたように思う。

北日前は、とにかく野外が不安だったので、バンケットや馬場の外に作った乾藁やコインを、出来る日は運動の最後にちょっとづつやるようにした。肢の故障が怖かったので、あまりハードにはせず、慣らす程度にやった。馬場については、あまり重視していなかった。シーズンを通して、障害練習は単一障害を繰り返し飛ぶということはあまりせずに、コンビネーションでゆったりとうまく体を使って飛ぶことを教え、後は様々な物や形の障害を低い高さで、ランダムに出来るだけ馬まかせで速歩や駆歩で廻ったりした。かなり、自然馬術を意識した調教であった。この調教方法が、本当に意味があったかどうかは分からないが、ただひとつ良かったと思うことは、練習において1度も反抗されなかったことだ。野外ではたくさん反抗されたし、試合やクリニックでも反抗したが、北大の馬場においてはまず反抗しなかった。何を目的としてやるのかをはっきりさせ、的を絞った出来るだけ反抗するリスクの少ない練習をしてきた。人の練習が目的なら、80センチくらいの障害で十分だし、そこで人が失敗してハミをはずしたり踏切を間違ってもまず止まることは

ない。むしろここでバランスを崩したり、踏み切りが近くなってもあまり苦痛と感じずに飛ぶことを繰り返していれば、いざ本番で人が失敗しても助けてくれるようになるかもしれない。馬の調教がメインなら、出来るだけ人が失敗しにくい状況でやるべきで、コンビネーションなどは絶対に踏み切りを間違わないから、有効である。また、経路周りで高い障害をやりたいときも、間歩の決まっている後ろの障害を高くすれば、踏み切りも合いやすい。また、オクサー障害は高くせずに、低くてその分幅をつけてやるほうがいい。高さは1メートル以上なのに幅は60センチくらいしかないオクサーを飛ばしているのをよく見かけるが、あまり意味はないと思う。オクサーと垂直はしっかり分けて考えるべきで、垂直の延長にオクサーがあるのではない。障害の前には、グラウンドラインとして馬が踏み切りをあわせやすいように10センチ～40センチくらい離してバーをおく。特に幅の広い障害はこのバーを離しておけば、馬が真下まで突っ込んで止まることもない。とにかく出来る限り失敗をしない方法をとるべきで、けっして人の自己満足のための練習をしてはならない。低いレベルで反抗などした場合は、馬のわがままとして怒るべきだが、高いレベルで人が失敗し反抗されたときなどはもう取り返しがつかない。馬に反抗することを教えているようなものだ。

少し話がそれたが、こうして北日学を迎えることになった。福島では、最初はかなりバタバタした。障害もクロスバーでもまるで新馬のように興奮した。しかし、フレンドリーの日は何とか落ち着き、準備馬場に入ると今までにないくらいの集中を見せ、乗りやすかった。2年前の北日学でゲネに初めて乗って、新人新馬に出場したが、そのときも止まる気がしないくらいいい状態だったので、ゲネは原町馬事公苑とは相性がいいのかもしれない。

調教審査でも準備運動はかなりいい状態になったのだが本馬場に入ると馬が緊張してしまい、駈歩区間にはいり緊張の糸が切れ、跳んだ。しかも、終わってみたら鼻血を出していた。準備運動で、少し調子に乗りすぎたのかもしれない。

耐久は、かなりかかって障害に向けるので精一杯であったが、障害前になると馬が勝手に減速して自分で踏み切りを探して飛んでくれたので、助かった。最後に、森から走路に出るところで速歩に落として坂を下ろうと決めていたのだが、馬も疲れたのか、思ったよりも早くに速歩に落ちて、たらたらと坂を下って、そのまま池に向かったら止まった。完全に油断した。トルネードが池に入るときに大きく跳んで人馬転したのを見て、突っ込んではいけないという意識があった。馬のエンジンを切ってしまった。

余力は、馬がかなり疲れているのが感じられ、前進氣勢がなかったがバランスのいい動きをして、障害には絶対に足を当てなかった。止まるかもしれないと思い、とにかく前に出した。鞭を何度も入れて、必死に前に出したら、満点で帰ってきてくれた。

秋季大会では MC に出場したが、あえなく失権した。準備運動で落ち着きがなく、跳ねて跳ねて仕方がなく、何とか落ち着かせて廻ろうという意識があり、馬を前に出すのを忘れていた。ゲネシスは、バネはあるがパワーがあるわけではないので前にでていなかった

ら、飛べない。試合では前に出すことは基本中の基本なのにそれを忘れてしまっていた。

10月に畜大に馴致に行ったが、やはり下りる障害と、乾豪が踏み切り側にあるダブルをかなり嫌がり、何度も反抗した。3日間あったが、とにかくこれらの障害をやりすぎというくらいみっちりやった。ピアノバンケットを、逆に降りる方向にやったりもした。畜大と一緒に起伏のある農場の草地で、オープンスペースで障害を飛ぶ練習もした。やはり、こういう練習が出来ること、馬のバランスを向上させることが出来てとてもいい。

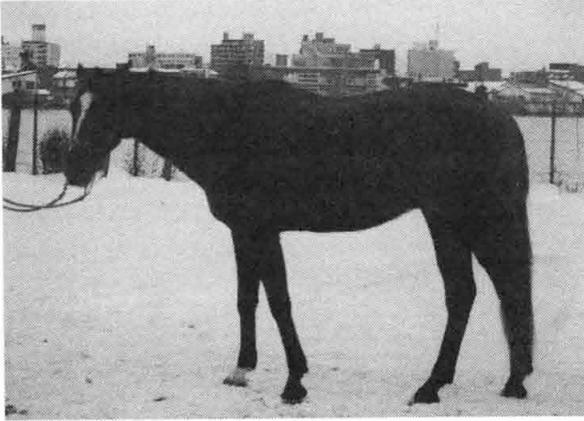
東京の馬事公苑では、メインアリーナのほうに行くのと落ち着きを無くした。案の定、調教審査は周りに気を取られ、全く集中せずにバタバタ。耐久はとにかく帰ってくるのが目標で、スキージャンプは回避してセレクトで、他にもいくつかロングルートで行こうと決めたが、コフィンや水豪等、今まで似たようなものを行ったことのあるものは、難しそうでも回避しないことにした。あまりロングルートを選んでも、むしろそこでエンジンが切れてしまう恐れがあり、安全というわけではない。反抗したのは、幅が狭くて高さのあるウッドパイルで、バウンスを飛んで回転してすぐのアプローチの難しい障害で、一回巻いてから向かう方法もあったが、ボリュームだけだろうと思って、少しなめてかかった。幅の狭い障害を今まで練習したことがなかったので、違和感を感じたのかもしれない。放牧地で、同じように幅の狭いコーナー障害があったが、その場の判断で、ロングルートを選んだ。ただ、ロングルートで一度落ち着けて飛ばしてから、もう一度エンジンをかけなおすために、鞭を入れて走らせて次の障害に向かった。水豪の前に花壇のある障害は迷った挙句、ストレートで行ったが、かなり躊躇して逃げそうになり、もうだめかと思ったが、何とか飛んでくれた。

その日の午後の余力審査では、明らかに跛行していた。インスペクションが耐久の直後だから良かったものの、準備馬場でスチュワードにでも気づかれていたら、失権となっていたかもしれない。にもかかわらず、馬の状態はとてもよかった。かなり、起きた駈歩をして、飛びも良く、また北日と違って前進氣勢がすごかった。準備運動はほとんどやらず、障害も出番前に駈歩で3回飛んで、後は少し歩かせてから臨んだ。秋季大会の失敗を生かし、どんどん推進した。馬事公苑特有の盛り上がった馬場の中央に向かうオクサーは打脚して向かった。コースは基本的で、高さもLAに毛が生えた程度だったせいもあるが、今までで一番いい走行が出来た。

さあ、来年は全日学で入賞するぞ！

と、同時にもっと大人になってくれ、ゲネよ。

## リッチステート



駒 サラ 栗毛  
昭和59年9月1日生  
オーストラリア産  
父 不詳  
母 不詳  
競走名 なし  
愛称 リッチ  
平成12年5月28日入厩

### 調教報告

竹田 敏宏

リッチは12月に加藤兄より引き継いだ。能力が高く、またよく出来上がった馬であるということは皆がわかっていることであつたが高齢馬であつた為、当面は馬体の現状維持ができるようになる事を目指した。当時の僕は馬とけんかばかりしていて何もわからない手探りの状況で騎乗していたため、馬体維持を目指してもその具体的な方法がなかなかわからなかった。今までリッチを管理してきた人の話を聞こうとしても、現役には1年間を通して管理してきた人がおらず、それまではチーフが頻繁に変わっていたために、リッチのことをよくわかっている人がいなかった。幸いにもこの時に競馬場の月例会があり、高橋先生にハミ受けの初歩を教わる事ができたので、以降の練習において馬を丸めた運動がどういったものかを感じることができた。これは、以降のリッチとの関係作りにおいてとても役に立った。(これは、おそらくすべての馬にいえることだと思うが、それまでその馬を管理していた人に話を聞き、馬の性格や癖、やると嫌がることなどを把握し、その人がやっていた運動内容を理解した上で自分なりの調教方法を確立することが求められると思われる。引継ぎから北日学まで1年も無く、その中で馬を良くしていくためには、前任者の意向を取り入れ現状を維持できるようになった上で、人馬の向上を目指していった方がよいということである。おそらく今までには徹底されていたはずのことが、一部の馬ではチーフが代替わりとともに姿を消してしまい残された新チーフが途方に暮れている状況を見ることがあった。)

ここまでで冬の間の目的はかなり容易に立てることができたように思う。しかし、目的のはっきりしていくとともに、人の技術不足が如何に深刻であるのかもわかってきた。人

の技術向上と馬体維持、単純なことではあったがこれがとても重くのしかかってきた。

毎日毎日み受けと低伸運動の練習ばかりをした。しかしなかなか上手くいかない。そんな時にノーザンホースパークに連れて行った。屋内馬場での雪の無い練習であった。馬は環境が変わったせいで少し興奮気味であったが、運動を始めると驚くほど人に集中してくれた。脚を使えば自分からハミを求め、横運動も扶助に従ってスムーズに行うことができた。毎日毎日苦勞していたことが嘘のようであった。この時に初めて、リッチに関しては毎日決まりきったことばかりせずにどんどん運動に変化をつけていった方がよいのではないかと感じるようになってきた。この時から日々の運動に変化をつけて運動するようになり、馬体維持のための運動については一応の目途が立った。これからは技術向上の練習をしていっただけだ、と思っていた頃にはもう雪解けだった。障害の練習を開始すると冬の間まったくやっていなかったこともあり走り走った。しかし、自分からどんどん障害に向かっていっただけあって、反抗は一度も無かった。馬が飛んでくれるのだからとタカをくくって、走られてコントロール不能にならないようにすることばかりに気をとられていた。(今から思えばこの間の時間があったいなかった。馬鹿なことをしていた。)怪我により半澤杯を回避、新緑大会から始動した。フレンドリーは走っていたが、先に書いた理由により無反抗、本番で拒止、落馬。この時に、障害前で脚が伝わっていなかったこと、体が起こせていなかったこと、一度走行した経路を回っていたことで馬が半減却の利きやすい状態にあったのに走られるのを怖がって馬の前進氣勢まで殺してしまったこと、これらのことに気付いていれば北日学の結果も変わったかもしれない。正確にいうと気付いていなくは無かったのであるが、事の重要性を理解せずに、軽んじていたことに原因があるように思う。基本的なことよりも踏み切りだとか回転方向だとかを気にしすぎて、迷走していたような気もする。障害前でも脚は使っていたが馬に伝わっていなかったと思う。これから公認大会までは同じような失敗の連続であった。そして北日学である。

調教審査では、それまでの馬場的な運動の成果があったのか大きな失敗はなかった。それまでの大会から、本番では、馬場坪に入ると馬のテンションがあがりすぎる可能性があることがわかっていたため、馬の集中力が切れないように準備運動は短時間で早めに終わらせた。(朝早くにも運動して、このときに柔軟運動は終わらせていた。)

耐久審査では、他大学の選手がアクシデントによって負傷してしまったためスタート時間が遅れたのだが、結果のほうは6月の福島馴致の成果もあり無反抗であった。ただひとつ、馴致中に馬に拒止されていたコフィンも北大の馬場の隅に作って練習していたためか、全く気にすることなく飛んでくれた。(コフィンが前半にあったため、それ以前の障害をできるだけ元気よく飛ぶようにしたのも良かったのかもしれない。)

余力審査は第1障害で2反抗、第2障害で失権した。この結果については今までの経過を考えると仕方のないものであったように思う。耐久障害の怪我が尾を引いていたのか、疲れが出ていたのだとか、準備運動が多すぎたという話も聞いた。ただ、乗っていた僕の感想としては、それまでの練習の過程での馬との関係作りができていなかった結果だ

と思う。普段の練習でも、このときの準備馬場でも、大きな障害はクリアーしていたのだが（単独障害の飛越に関しては最低限のことはできるようになっていたとは思いますが）、経路走行になった際に、流れの中で飛越していくための馬との約束はほとんどできていなかった。（このころは馬自身が経路走行に対して不信感を持っていたようにも思う。）

ここまでが引継ぎから北日学までのリッチと僕の経過である。思い出せば細かなミスは数え切れないが、何度も書いているように本当の意味での大きなミスは馬との関係作りができなかったことである。多くの先輩方が残してくださり、また近い代の OB の方からも教わっていたことであるが、未然に防げなかったことに後悔が残った。頭でわかったつもりでいても、実際に自分で体験しないとわからないということは馬術をしていく上では避けられないことではあるが、それでいても感づけなかったことに対して悔が残る。

幸いにももう一年リッチとコンビをくんで北日学を目指せることになった。ここからは来年の部報に書くことであるが、とりあえず秋は、経路走行の流れの中で馬に不信感を与えないこと、馬が安心して気持ちよく障害を飛越できるようになること（バランスを変えることやハミで馬の邪魔をするのではなく、体全体を使った大きな飛越ができるようになること）、この点を特に徹底して、細心の注意を払って障害練習を行った。その効果があったのか、OB 戦では一応の形では経路走行を一定のペースで廻ることができた。まだまだ僕の技術も信頼関係も不十分であり、これからそれを改善していくためにやっていきたいこともある。それらは次の部報に結果とともに書いていきたいと思います。

この約一年の間に、様々な方から助言・指導していただきました。それらを思い起こしてもう一年がんばっていこうと思います。特に近藤喜十郎さん、中田さんには多くのことを教わりました。お礼は、リッチとの2年目のシーズンが終わってからにしようと思います。それまで一層のご指導よろしくお願いします。

それと、今回は調教報告というよりも、初めて自馬を持って望んだ1年間の流れを追っただけになってしまったようにも思う。具体的な運動内容や練習のプロセスに関してはほとんどかけなかったが、これはまだ自分の中で納得できていないものと、自分で体得したと思われるものがあるからである。次のシーズンに向けて、自分が体験して納得したものは他人にも伝え、また、納得できないものについては追求していくとともに他の人との意見交換をしていきたいと思う。リッチとシーズンを乗り越えていくこととともに、他のチームに去年僕が通ってしまったような無駄の多い、回り道を通らないようにしていければ、必ず全体としても良い結果が残せると思う。

## 🐎ヤスノインディアン🐎



駒 サラ 鹿毛  
平成8年4月29日生  
北海道三石郡三石町産  
父 ダイヤモンドショール  
母 ヒカリハード  
競走名 ヤスノインディアン  
愛称 ヤス  
平成13年12月2日入厩

調教報告

尾崎 哲浩

■はじめに ヤスノインディアン号には一昨年の秋から一年ほど騎乗してきた。当初は、現役部員が競走馬上がりのサラブレッドを乗用馬、競技場として活躍できるように調教するにはどの様にしたら良いか、少しでも手本になればいいと考えていた。したがって、現役部員にも自分のやろうとしていることが理解できるように、また現役部員が騎乗したときでも自分と同じように騎乗できるように一つ一つ丁寧に調教することが目的だった。しかし、同馬の実力は素晴らしく、自分の騎乗期間が約1年間という限定のものであったため、自分で同馬の能力を試したくなってしまった。現役部員には、この自分の欲望のために当初の目的を変更してしまったことを謝らなくてはならない。

昨シーズンは、新馬戦を連戦し活躍してくれたが、これで万事大丈夫というわけではない。自分がやったことは飽くまでテストである。大した調教などしなくても、この馬はこのくらい出来るということを確認しただけである。

■メインフィールドにいた頃 ヤスノインディアン号は、直接馬術部に入厩したわけではなく、初めは乗馬クラブメインフィールドに入厩した。メインフィールドにお世話になっているのは、1ヵ月半程度であったと思う。この間に、メインフィールドのオーナーである小野さんに調教のノウハウをおそわりながら騎乗していた。

まずは停止、減却を教え、その次に脚を教えた。初めは、内方脚を使って外へ逃がすようにした。この段階で、外方で受けるということはせずに、とにかく使った内方脚に対する反応を要求した。最初はかなり強い扶助が必要だったが、繰り返すうちに軽い脚にも反応を示すようになった。ここで大事なのは、要求し続けるのではなく、馬が反応して2歩、

3歩期待通りに動いたら良しとすることである。

次のステップでは、ハミを求めた。内方脚を使ったときに、外方手綱を支持して肩を押さえるようにし、内方後肢の踏み込みを促す。ここでは、馬も持たれた手綱に抵抗し、頭を上げるので、折り返し手綱を使用した。

メインフィールドでお世話になっていたときは、障害はほとんど調馬索での自由飛越で行っていた。高さは、高くても80cm程度までであったと思う。同馬は非常に潔癖で、初めは怖がって走ったりすることもあったが、すぐに慣れて落ち着いた。性格も素直で、障害に向ければ逃避することなく飛越した。

■冬 北大に入厩して、まもなく冬になり思うように運動できない状態が続いた。新馬は毎日少しでも乗れると良いと思うのだが、この時期は乗れない日も多く、つらい時期であると思う。

腰の筋肉を養成するために、シャンプーをつけた調馬索を行い低伸姿勢を要求した。調教者の技術不足のせい、なかなか前に出ていかず、この時期からハミへの反抗が強くなったように思う。

騎乗しての運動では、減却の効き方が北大に入る前に比べてかなり悪くなった。減却の際に口を割ったり、頭を上げて抵抗する仕草も見せた。ハミに対する抵抗が出てきたのが原因だと思う。

何とか抵抗をなくすために、調子の悪いときは運動内容のレベルをかなり落とした。少しでの出来たら、そこで切り上げるようにした。減却時は以前に増して声をつかうようにした。

春先には、元の状態に戻ったと思うが、冬の時期の進展はないに等しい。

■シーズン 障害の競技会にしか出場していないが、シーズンに入ってから、競技会出場ごとの馬の進歩がめざましかった。そういう意味でも同馬は優秀であると思う。

同馬は、かなり周りの馬を怖がるので、準備運動には細心の注意を払う必要があった。さらに、準備運動は極力短時間で済ませるようにした。又、混み合う時間帯を避け、落ち着いて運動できる時間を作るため朝一番に一度、騎乗するようにしていた。シーズン後半では、障害の高さが上がったが、準備馬場では最高でも100cm程度までしか飛ばなかった。同馬の能力であれば、高さについては問題なく、要は落ち着いてとべるかどうかだけだと考えたためである。

普段の練習でも、障害練習は積極的に行った。早い段階から、練習では経路を落ち着いて回れるようになっていたが、本番ではそう簡単にいかず、抑えの効かない場合が多かった。第1障害を速歩で入ってみたりいろいろ工夫はしたが、コースを通して同じリズムを保って走行することがなかなか出来なかった。

しかし、ある大会でトム・サムビッド(?)を使用してみたところ、経路走行中かなりおさまりがよくすんなりと手の内に入った。ただ、このハミはあたりがきついので、しっかりと前に出した状態で使うことと、戻ってきたら許すということを忘れないようにした。

入厩1年目のシーズンからずっと連戦してきたが、良くも悪くもこの馬が吸収したことは多いと思う。

■おわりに 新馬に乗る上で大切なことは、その馬としっかり付き合うということだと思う。新馬を調教したり、試合に出たりするには少なくとも経験の浅い我々は、その馬がどんな馬なのかを十分に知る必要があるのではないだろうか。

新馬にとっては、新しく入ってくる情報が多くて、時にそれを負担に思っただけでストレスを感じることも多いと思う。だから、その馬について世話をする部員は調教者と同じく責任重大であると思う。今回、馬の精神的なメンテナンスは馬責としてついてくれた吉川さんにかなりお世話になった。

また、調教に関してはメインフィールズの方々にかなりお世話になりました。道内の乗馬関係者の方々にも貴重なアドバイスをいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

今後の更なるヤスの活躍を祈っています。

## 🐾 ウッドバイン (ウッドバインパトリック) 🐾



騾 中半血 栗毛  
平成3年生  
ニュージーランド産  
父 不詳  
母 不詳  
競走名 なし  
愛称 パト、パトリック  
平成14年3月14日入厩

### 調教報告

木村 滋之

ウッドバインは、今年の春に本城さんのはからいで競馬学校から入厩した。もともと右前肢に繋靭帯炎をわずらっており、練習馬としては期待できないが、障害に関してはまず反抗することがなく、上級生が軽めに調整していった北日学の二走を目指せるということで6月から僕が乗ることになった。

口向きが悪く、特に右口が強く馬体のバランスも右に傾きながら運動するので、左回転で外に膨れやすく、右回転では内に傾いてくる。そのため、普段のフラットワークでは右に寄せないようにバランスを真直に保って運動することを心掛けた。また、興奮するとブレーキがきかなくなるところがあり、障害の練習では飛んだ後、しっかり止めてエサをやるようにした。

ノーザンの試合では、準備馬場でかなり興奮して、いつもうまく折り合いがつかず、春季大会では走って右前肢をさらに悪化させてしまった。そのため公認大会には出場せず、北日学の二週間前まで休ませて、最後の二週間で調整を行い、北日学に臨んだ。

新緑大会、春季大会ともかなり走られて馬任せの走行しか出来ずまだまだ馬に負けている状態であったが、最後にきてようやく馬との折り合いのつけ方が分かって来た。

馬がかかった時に中途半端に抑えて、しっかりと座らずに持ち続けているとさらにかかっていくので、抑えるときはしっかり座って拳を固定するようにして、抑まったら楽にしてやることを心掛けた。あたりまえのことなのだが、それまで2ポイント主体にして乗ってきた僕は、駈歩で座ることができなくなっていて、すぐに腰を浮かせてしまって、なか

なかそれが出来なかった。最後の最後の練習でようやく出来るようになって、すこしだけ自信をつけて北日学に臨むことが出来た。

福島では、最初の練習では駆歩も走ってまともに出来なかったが、日を追うごとに落ち着いてきて、フレンドリーこそ、まだ少し走っていたが一走目、二走目はちょうどいいテンションで迎えることが出来た。

6月の野外の馴致の時に一緒に連れて来た効果もあったのかもしれない。それでも準備運動ではとにかく落ち着かせることを心掛けた。今までになく思い切った良い準備運動が出来たので、それが自信となって本番でも思い切った良い走行が出来たのだと思う。走行中は、かなり強いコンタクトで特に右拳はずっと持ちっぱなしではあったが、前進氣勢を殺してしまわないように注意した。落下したのは、人が中途半端な踏み切りの合わせ方をしたからだと思う。

北日学が終わって、やはり右前肢の状態は悪く、二ヶ月間丸々馬休としたが、OB戦前に軽く経路を廻ったら跛行。その後もあまり思い切った練習も出来ず、全日学を迎え、フレンドリー前々日にまた跛行、フレンドリーを回避して一走目では準備馬場で馬が興奮して何も出来ずに入場し、てんでばらばらの走行で7番障害で3反抗。止まった直接の原因は後ろのラチが非常に近かったということもあるかもしれないが、とにかく、それまで人が自信を持った練習が出来なかったのが失敗につながったのだと思う。

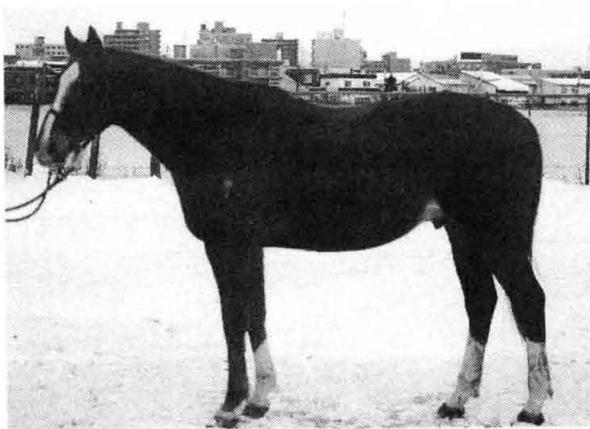
## 中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎ 726-1526

## 🐎サラマンダー🐎



騾 中半血 栗毛  
昭和58年生  
オーストラリア産  
父 不詳  
母 不詳  
競走名 なし  
愛称 サラ、サラマンダー  
平成14年3月14日入厩

### 調教報告

武井 亮

サラマンダーはOBの本城さんの紹介でウッドパイン号と共に2002年3月に北大にやってきました。高齢ということもあり、また非常によく調教された馬であることから離厩馬の候補ではあったのですが、非常に扱いやすく、素直なため練習馬としてやっていくことになりました。

#### ・FWについて

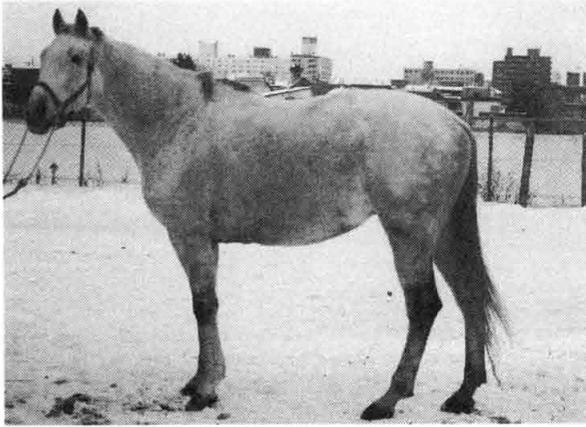
サラマンダー号は体が硬いところがあり、また下級生が乗るとやや背中をはるので、準備運動で十分に体をほぐす必要がありました。乗り始めた当初は、僕の技術レベルの未熟さのため準備運動で2ポイントで背中をじゃましないように速歩、駈歩をすることしかできず、十分に体がほぐれきれない彼は、下級生に背中をたたかれ走ることがたびたびありました。半澤杯を過ぎたあたりから先輩に見てもらいながら、首を伸展させゆっくり大きく、常歩からじっくりとほぐして練習をし始めました。彼は非常によく調教されていた馬なので、なんとか馬に分かってもらうようになるという状態でしたが、徐々に背中をたたかれても我慢が効くようになってきました。ところが、大きく動かすことを意識したあまり馬場全体を使って運動したり、輪乗りしてもかなり大きな輪乗りでやってばかりいました。このことによって、普段から馬に内方脚と外方脚との違いを明確に示しきれなくなっていました。特に外方脚の反応は顕著で7月に乗ってもらったOBにも外方脚のききの悪さを指摘されました。そこで、輪乗りでの運動を多く入れ、また蹄跡を使って後肢旋回、肩内を行いました。肩内は、内方の手綱を絶対に使わないこと、一步ごとに外方脚を使うことに注意しました。また、右と比べて左手前は体が硬く口も悪いため、苦勞しま

した。どうしても肩をはって内方姿勢がとりづらいので肩内を多くすることでなんとかしたかったのですがどうしてもよくなりませんでした。

・障害について

彼はすでに100cmクラスなら楽々に満点で帰ってこれる実力を持っていました。ただし、あたりまえですがバランスに敏感で上がバランスを崩すと走ってしまうところがありました。僕の未熟さゆえ半澤杯ではかなり走らせ気味になってしまいました。そこで、まずは僕のバランスの改善に努めました。これにはバウンスを入れたコンビネーションをすることによって改善に努めました。そのせいか、春季大会くらいからは落ち着いて経路を廻ってこれるようになり、一度廻ると、その後の下級生も当然のように廻ってこれるようになりました。次に110cmクラスに Step up することを考えました。彼はやや小柄なため、間歩が小さいので最大の問題はダブル、トリプルで間歩が合わないことだと思っていました、そのため、どんどん前に出し大きく歩かせることが重要だと思っていました。しかし、僕がやっていたのはただいたずらに馬のペースを乱してただけで、馬にまったく力もたまらず、体も伸びきっていました。このため国体予選では左手前回転で肩をはり逃げられ、2反しました。もっと馬を手の内に入れて、脚を使った分を拳で受けて、力を逃がさないことが重要でした。山下杯ではこのことに注意、非常にいい感じで最後のトリプルに向かいました。ここで僕はまた前に出そうとペースを上げてしまい、止まりました。彼は先飛びで落ちかけた僕が戻るのをじっと待っていてくれました。次に向かい直すときは、脚を使い、前をもって丁寧に向かいました。はじめに僕が感じた不安は的外れでした。彼は自分で小足を入れて間歩を合わせ、2個目の障害を飛越した後、首の上に落ちてきた僕を乗つけたまま最終障害もクリアしてくれました。本当にこの馬は偉大でした。来年一年間も僕が面倒を見ることになりました。コンビネーションを一定のリズムでこなし、2ポイントさえできれば、100cmなら必ず帰ってくる彼は下級生の障害練習には、最適だと思います。彼で練習や試合に出る人は感謝の気持ちを忘れずしっかりその経験を生かし、高齢にもかかわらずがんばる彼の努力を無駄にしないようにしてあげたいです。

## 🐎エルグレイ🐎



駒 サラ 芦毛  
平成1年6月10日生  
北海道三石郡三石町産  
父 メジロエスパーダ  
母 スナークリーズン  
競走名 サンエイアサマ  
愛称 リーズン、エルグレイ  
平成14年9月16日入厩

入厩報告

高島 渉

北海道ではちょっぴり名の知れたエルグレイが9月16日にメインフィールドより入厩しました。肺が悪いため無理が出来ないのですが、馬は素晴らしいので限られた時間で人がどれだけレベルアップできるかが問題です。エルグレイの名に恥じぬよう東京に連れて行きたいです。

### 有限会社 菅原写真商会

パスポート写真

カメラ・カラープリント特急仕上

3分間写真

各種証明写真

デジタルプリント

すぐできます

北22条西4丁目 ☎ 716-2662

## 🐎 シンコウブラウン 🐎



騾 サラ 鹿毛  
平成2年3月6日生  
北海道浦河郡浦河町産  
父 クライムカイザー  
母 アーマゲイ  
競走名 シンコウブラウン  
愛称 シンコウ  
平成15年1月19日入厩

入厩報告

前野 伸策

シンコウブラウンは1月19日に浦河高校から入厩しました。鹿毛の13歳で父親にダービー馬クライムカイザーをもつ騾馬です。右後肢の腱を断絶しているため常に跛行してはいますが、それでも、浦河高校で東日本で結果を残すなど、能力はすばらしい物をもっており今年の二回走行では活躍してくれると思います。体調管理に特に気を掛けていきたいと思えます。

### き よ た

やきとり 居酒屋

ボリューム満点！コンパ150名様までOK！

札幌市北区北17条西5丁目北向き

当店誕生日、ご利用の方には  
カラー写真・粗品をさしあげます。

TEL 011-747-7000

## ㊦北蒼（トワイライトブルー）㊦

平成10年3月28日入厩

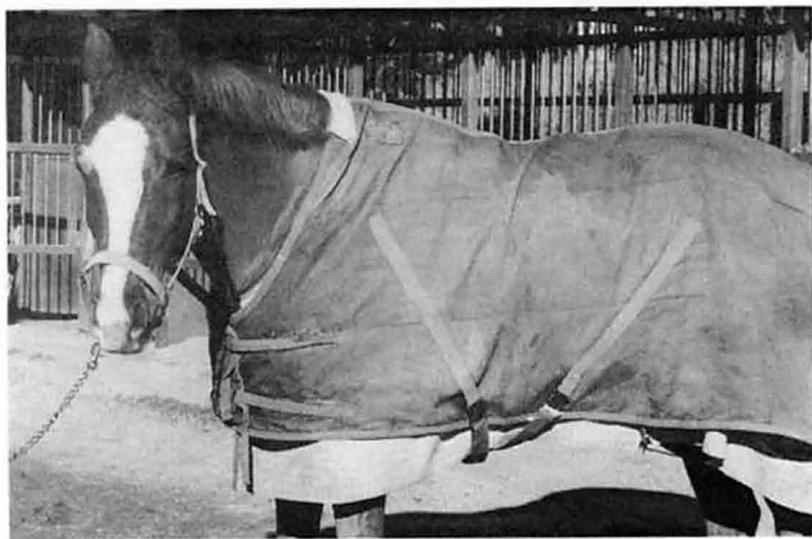
平成14年6月5日離厩

離厩報告

堀内 太郎

北蒼号は1999年と2000年の北日学では総合で権利までもう一步というところまでいっており、飛越能力にしても、馬場運動での動きにしても素晴らしいものを持っていましたが、騎手がしっかりとした騎座と推進力を持っていないとなかなか乗りこなすのは難しく、静岡の平沢ライディングガーデンの方へ離厩させることになりました。

北蒼号は今、静岡のほうでかわいがってもらっているようです。



北蒼号（平沢ライディングガーデンにて）

# 🐎 北斗 (ユウログレイ) 🐎

平成11年3月入厩

平成14年9月11日離厩

調教報告

寺島 良

2年目の12月から乗り始めました。老齢ということもあり、運動は常歩、速歩が中心であまり無理は出来ませんでした。体がすごく硬く、速歩をはじめるといつも跛行気味に動いていました。それをなくすためにとにかく常歩で体をほぐすよう、横運動をやりました。背中をはらないようにある程度長手綱で首を伸展させるようにやりました。そうすることである程度後肢も踏み込んできてほぐれて着たら反対姿勢の輪乗りをやったりしました。この運動は左右の脚反応の確認も出来るし、さらにほぐれるということで効果的なのではないかと思いました。でも外へ逃げていく運動なので必ずやった後は外方の反応を確かめるために巻き乗りをやりました。

速歩ではどんどん図形を入れて後肢を良く踏み込ますようにしました。内方姿勢を肩内気味にしっかりとってやりました。そして速歩でも反対姿勢の輪乗りをやりました。ほぐれてきたと思ったらその後伸直性を意識してつめ伸ばしをやってから駈歩に移りました。

駈歩でも速歩といっしょで姿勢をきつくとってどんどん図形を入れて後肢の踏み込みを意識してやりました。

このようにとにかく体をほぐして後肢を踏み込ますことを考えてフラットワークするようにしました。これができて馬がしっかり動き出せば、馬自体はバランスもよく反応もよいので後は人の練習といった感じでした。

僕が特に自分にとっていい練習だと思ったのは駈歩の輪乗りの中に低い障害を置いてしっかり踏み切りをあわしていく練習です。これをやることでしっかり踏切を見る目が出来てくると思ったし、馬にとってもどんどんほぐれていきます。出来れば一定のペースで同じ歩数でいければもっといい練習になります。中野さんのクリニックでは対角線上に横木を置いて同じように一定のペース、歩数でやっていたのでこれもいい練習だと思いやりました。普段の練習ではこんな風にフラットワークの延長といった感じで練習しました。

試合では僕の計画どおり順調に公認大会でMCを廻ってきて、北日学の二走に出場することが出来ました。一走目は暑さのせいかわ馬は疲れていて、ペースは遅かったけど4落で帰ってくる事が出来ました。しかし、二走目は涼しくなり馬も元気になったが逆にペースが速くなってしまい落下が増え、そして、一番失敗したのは6→7の回転でUターンみたいな所で早く回転してしまい、7番へのアプローチが短すぎ拒止して落馬してしまいました。自分の失敗で失権させてしまったのがすごい悔やまれました。こんな風に僕

とユーグレイの北日学は終わってしまったけどこの馬に乗れてすごい成長できたと思うし障害の楽しさがわかりました。しっかりできている馬に乗ることで学ぶことはすごく多かった気がしました。そしてそれが来年への自信へとつながると思います。

最後にユーすけのことでお世話になった井口兄、堀内兄、そしてメインフィールドズの小野さんどうもありがとうございました。ユーすけに乗った経験を生かして来年は必ず良い結果を出します。

#### 離厩報告

寺島 良

この9月で白井牧場不二ファームへ離厩しました。LBぐらいまでなら誰が乗っても帰ってこれるし、特に変な癖もない乗りやすい馬でしたが、老齢ということもあり、あまり無理が出来ないという理由で離厩となりました。メインフィールドズからやってきて井口兄が1度全日学へ行っただけという結果となってしまいましたが、この馬から学んだことはすごく多かったです。今は白井牧場でビギナーズの人たちを乗せてまだがんばっているそうです。この間も白井牧場で大会があってLBまで出ていました。とにかく幸せな余生を送っているようなのでよかったです。



寺島兄と北斗号

# 🐎 グリーンザクロス 🐎

平成14年1月25日入厩

平成14年9月23日離厩

離厩報告

高島 渉

平成14年1月25日に入厩したグリーンザクロスですが離厩することとなり、昭和46年卒の松井さんに引き取っていただき9月23日に松井さんが馬を飼っている洞爺湖畔に旅立ちました。

わずか8ヶ月(実質乗り始めた雪解けから数えると約半年)しか在籍しなかったわけで、OBの方々から見ればそんな短い間で何が分かったのかとご批判される方もいらっしゃると思います。この馬は性格も素直だし、わりと物怖じしないタイプで毎年乗り手が変わっていくということを考えると学生向きの馬だったように思います。障害をやり始めても走ったりすることもなく、少しずつですが着実に進歩していたと思います。

ただその反面、ピリッとしたところが無く重い馬であったことも事実です。野外走行などを想定した場合、逆に走らせることが難しかったかもしれません。また体型的に重心が前にありちょっとのめった感じもありました。乗った感じも将来北日を目指すにはちょっと…という雰囲気でした。このようなことから判断した結果離厩に至ったわけです。

ただ北日での権利とかそういうことにこだわらないのであれば、L級位は十分にこなせる馬になると思うので松井さんと共にノーザンホースパークで再会する日も近いと思います。

以上、えらそうに書いてしまいましたが、乗り手の技術不足と言われてしまえばそれまでです。新馬が育っていないというのも事実であり、高齢化が進んでいるのもまた事実です。これを糧に上手くなるべく努力していきたいと思えます。クロごめんね。

## 赤ひげ

で

よくコンパをやります。次のコンパが楽しみだ。

札幌市北区北22条西5丁目2-5

TEL 707-5076

# 🐎 ファンキーバブル 🐎

平成12年10月1日入厩

平成15年1月12日離厩

調教報告

寺島 良

この4月から木村から乗りかわりました。突然の話で、新馬を任されはじめは戸惑いと不安があり、そして自分の実力のなさもあり一層不安になりました。でも木村にもある程度手伝ってもらって何とかやっていきました。

乗りはじめの頃はとにかく自分が馬に負けてしまいわがままされ、まともに図形も描けず、駈歩も出ないようなことがしばしばありました。そしてこの馬自体脚反応があまりよくなく、性格もわがままでやんちゃでした。まずはできることからと思い、ひき運動でとにかくわがまをされないこと、そして声で発進、停止、歩度を伸ばす、つめるをやりました。騎乗中は鞭と声で前に出るようにしていき、なるべく脚は一生懸命使いすぎないようにしてなるべく軽い脚で反応するようにしました。

とりあえずシーズン中はビギナーズクラス(70~90cm)をしっかりと帰らせることを目標にやり、秋にはLBという計画でした。北日学までは順調にいて90cmまでは確実に帰ってこれました。北日学が終わってから自分がユウグレイトに乗らなくなりバブだけになったので今までよりもいろんなことをやり始めました。

まずは常歩飛越を取り入れました。どこからでも踏み切れるようにというのと、後肢の筋力アップを目的としてやりました。バブは結構潔癖な所がありはじめからしっかり障害を見て飛びなんの躊躇もなくうまくいきました。そして常歩飛越ではバスキュールが悪くなるので速歩飛越で幅があって低いオクサーも平行してやっていきました。そんな感じで北日学後は調教していき、秋季大会ではLBに出ました。しかし門扉で失権。馴致はしっかりしたはずだったけど、かなり前から見てまったくいけませんでした。そしてその後の90cmクラスでは小さいオクサーでも嫌がるそぶりを見せました。これまで障害を見るということはありませんでしたが急にいろんな障害を見るようになりました。こんな風になった原因としては、ずっと速歩飛越では踏み切りバーを置いてやったり、常に馬が踏み切りを自分で考えずに今までは飛んでいて、最近になって常歩飛越によって障害をしっかりと見て飛ぶようになり、その障害はどこで踏み切ったらいいか分からなくて止まっているのではないかと思いました。だから秋季大会の後には常歩飛越に加え、踏み切りなしで、そして放棄手綱で速歩飛越をやり、しっかり自分で踏み切りを探し出させるようにしました。それに慣れてきたら今後は同じように駈歩飛越もやりました。そしてOB戦ではLBでなんとか帰ってくる事が出来ました。その中では常歩、速歩飛越の効果があつたともいえ

る飛越もありました。しかし、課題としては今まで障害中心でほとんど馬場的な運動もしていなかったせいでしっかりした経路どりができず一定のペースでまわれないということもありました。秋季大会後からは横運動も取り入れ単独脚の反応をよくしていこうと思ったけどOB戦ではその成果は見られなかったです。しかし、その後のモモセダービーではLBのコースをまあまあな感じでまわられてきたのでいい形で一応シーズンを終えました。

## 離厩報告

寺島 良

1月12日に石狩のメインフィールドへ離厩しました。新馬でノーザンホースパークから頂いて2年間いましたが残念ながら北日本にデビュー出来ず離厩となりました。小さい体ながらがんばっていて、そのかわいらしい顔でみんなの人気者でした。まだまだ若いのでこれからどうなるかわかりませんが、メインフィールドでがんばって活躍してもらいたいです。

最後に今までにバブを見てもらった川崎兄をはじめOBの方々ありがとうございました。



ファンキーバブル号離厩式

(一列目左から、阿部、前野、馬場、森久保、吉川姉、国井姉  
二列目左から、竹田兄、利根川、佐賀姉、ファンキーバブル号、高島兄  
三列目左から、武井兄、木村兄、堀内兄、日野  
四列目左から、前田、加藤兄、川崎兄、坂本)

## 北蘭号特集

北蘭号（アーネストヒダカ号）は平成9年に北大に入厩して以来、数々の大会で活躍し、また皆に愛され続けてきました。しかし、老齢のため昨年シーズンをもちまして引退させることとなり、11月24日、乗馬倶楽部メインフィールドの方へ離厩しました。

北蘭号特集を組むにあたり、これまで北蘭号に騎乗してきた方々に原稿を依頼しましたところ、多数、ご寄稿していただきました。原稿を寄せていただいたOBの皆様には感謝するとともに、ひだかへの深い思いを感じました。我々部員一同もひだかが穏やかに余生を送れることを願っています。

北蘭号の思い出

平成9年卒 亀山巖

名馬北蘭の出厩に際し、いくつか思い出話を寄稿させていただきます。

三年目の冬、中央競馬の本城先輩よりアーネストヒダカは北大馬術部に運ばれてきました。いまの厩舎ではなく北18条にあった旧厩舎の入り口近く、左手前の馬房に入厩しました。凛とした表情、細身の肢体、茶色味の強い栗毛の、美しい牝馬でした。いっしょに入厩したグラッドリーの愛嬌のある身体と比較され、その秀逸さがいっそう際立ちました。

しばらくして部員総会で、アーネストヒダカには北蘭、グラッドリーには北彪という北を冠した名前が与えられました。華やかで北蘭にぴったりの名前です。ヒューヒューとなっていた北彪にも、良い名前がつけました。北蘭には当初主将の池田、私は北彪を見るつもりでしたが、北日学でのオーダーを考え、北蘭は私とのペアでシーズンを迎えることになりました。

正直に言うと、人前で北蘭に騎乗するのはとても嫌でした。騎乗には常に緊張が伴いましたから。北蘭はとても優秀な競技馬でした。全日学までの約半年間騎乗しましたが、高齢で故障がちだったため鞍数はあまりありません。それでも私が騎乗するたびに、少しずつ、ですが着実に馬の反応が鈍くなる。この馬の能力ならもっと良い動きをするはず。だけど、私の騎乗では力を引き出すことができない。それはもう、嫌でした。

シーズン中に、ノーザンホースパークで外国人のインストラクターによる指導を受ける機会がありました。指示通りに運動すると、馬が見違えるように良く動く。日頃の下手糞な騎乗で馬が壊れていないことに対する安堵感と、そんなことに安心しているやるせなさ、なんともいえない気恥ずかしさを運動しながら感じたのを覚えています。（この話には後談があり、このすぐあと池田が代わって騎乗したら馬がさらに良く動く！強烈なショックを受けた。）

一方変わって、華やかな記憶、嬉しかった思い出もあります。故障が多かった北蘭は、シーズン最高のイベントである北日学前にも大きな故障をしました。破行がひどく、北日学直前になっても全く練習ができません。競技会場での帯広畜産大学に入厩してからも騎乗することができずダメかなとも思いましたが、馬体管理を引き受けてくれた乗次君の努力の甲斐あって奇跡的に二回走行に出場、全日学の権利を獲得することができました。私は生まれて初めて130cmの経路を飛越しましたが、スピードに乗った北蘭の飛越は後にも先にも経験したことが無いほど力強く、一度の拒否もなく全ての障害を飛びきってくれました。四年間の競技の中で、おそらく一番上手な障害飛越だったと思います。

皆様にはどうでもよいような思い出話をつらつらと書き連ねましたが、私と同時代に北大の馬場で時間を共にした先輩・同期・後輩には懐かしさを共有してくれる人もいるものと思います。北蘭はとても良い馬で、さく癖以外は欠点の無い、本当に美しい馬でしたね。

最後になりますが、得がたい思い出をくれた北蘭と、力を貸してくれた仲間、離厩先であるメインフィールドの小野さんへの感謝の言葉で小稿を終えたいと思います。ありがとうございました。

## 北蘭号

平成12年卒 大崎智弘

自分が北蘭号について覚えている限りここに記す。成績は部報を参考とした。

北蘭号（アーネストヒダカ：入厩時）が北大に入厩したのは、平成9年3月である。JRAの本城さん（昭和53年卒）のお世話で入厩してきた。当時、1年目の自分はすごい馬が入ってきて、いつかあんな馬に乗って試合に出たいと思った。

そしてその年、第32回春季北海道自馬馬術大会に亀山兄（平成10年卒）と北蘭号の馬付となった。L級標準障害飛越競技に出場した北蘭号は、2位であったが、競技終了後跛行が認められ、その後しばらく馬休生活となった。北日までは調馬索などで体を動かす程度であった。帯広畜産大学で開かれた第33回北日本学生馬術大会2回走行では1走目減点12、2走目減点8で8位となり、みごと全日本学生馬術大会出場権を獲得した。しかし、残念ながら全日では1走目3反抗失権であった。

代が替わってチーフが乗次姉（平成11年卒）となった。その冬、雪の中で常足であるがよく乗せてもらいました。脚だけ誘導しろと言われ、北蘭号の脚反応良さに乗りこなせませんでした。雪が解けて、半澤杯。馬場馬術第2課目では得点率52.8%で2位。小障害飛越競技では減点0（J.O. 減点3）で9位であった。北海道馬場馬術大会では第2課目A斑では得点率47.9%で9位。3課目A斑では得点率42.5%で17位であった。しかし、その後放牧地にて怪我をしてしまい、再び馬休生活となりその年の北日学の出場は断念せざるを得なかった。

代が替わって、自分がチーフとなった。代替わり後、しばらくして調馬索から運動を始めた。最初、調馬索では以前のように落ち着いて運動をさせることはできなかった。しばらく調馬索のみの運動であった。馬場が凍り始め、雪も積もり雪上で騎乗できるようになったらゆっくり基本的な馬場運動を始めた。雪上のため、蹄跡が残るのでその蹄跡を正確に通るようにし、つめ伸ばしも決めた位置で行った。本当に簡単で基本的な運動しか行わなかった。しかし、こんなに基本的なことでも彼女(北蘭号)から学ぶことは多かった。一つ一つの動きさえも全て勉強となった。自分一人で馬を一生懸命動かそうとしてはだめなんだ。人馬一体となって、人馬が気持ちよく運動できる状態が一番だということ教わった気がする。この冬は、ただ基本的な運動の繰り返ししか行わなかった。馬体の維持と人のトレーニングのために。雪が解け、半澤杯。北蘭号で初めての障害競技出場である。中障害飛越競技に出場し、当時 JRA の佐藤忍先生の指導のもと減点 4 で 4 位。まずまずの出足であった。しかし、まだ彼女の障害飛越のペースはわからなかった。自分は、彼女のような速いペースにはついていけなかった。春季北海道自馬馬術大会では MC 競技に出場。この競技では抑えてしまったせいか、減点 11.75 と 27 位。最悪であった。抑えてしまっただけだと思った。北海道馬術大会は彼女のペースで、内国産馬 MC 競技に出場。減点 4 で 11 位。やはりこのペースなんだなと思った。準備運動も自分なりのやり方が固まってきた。しかし、まだ彼女の実力を出し切っていなかった。このペースにまだついて行けてなかったせいか、無意識のうちに抑えていたのか。そして、ついに北日本学生馬術大会が近づいた。開催地はノーザンホースパーク。ある意味、ホームグラウンドである。馴致で、彼女はれんがの障害だけ気に入らなかった。北日のフレンドリー。無難にまわってきた。そして 1 走目。準備馬場でいつも通りの準備運動していたところ、小谷兄(平成 11 年卒)にもっと元気よく動かしてやれと言われた。そう、今まで本当に元気よく動かしてあげていなかった。1 走目の最終障害は彼女の気に入らなかったれんが障害であった。そこまでは、減点ゼロ。気合いを入れ飛越。見事減点 0。北蘭号で始めて満点で帰ってきた。思わずガッツポーズ…。翌日は確か朝から雨だった。雨は上がり、2 走目が始まった。彼女に少し疲れを感じ、昨日ほどのパワーを感じなかった。でも、彼女は気合い十分。2 走目は、障害に蹄を当てながらも満点でかえってこれた。2 走目終了して満点は自分を含め 3 人。酪農の小守、畜大の城。J.O は、城から。彼は勝負に出たようで 1 反抗してしまった。2 人目は自分。今までで最高の緊張感。プレッシャーをすごく感じた。息を大きく吸って馬場に入場。しかし高齢の彼女の疲労はピークに達していた。前に出そうとしても出なかった。でも気合いは相変わらず十分であった。結果は 1 落下。3 人目は小守。彼も 1 落下であった。わずかなタイム差で優勝は小守であった。終わった直後は、北蘭号とそして部員たちとここまでやれて悔いはなかったが、心中はやはり負けて悔しかった。

次なる目標は全日学。秋期北海道自馬馬術大会では、一般 S&HC 競技に出場。時間は 55.70 で 4 位。OB 戦の経路周りでは満点。準備運動も自分なりのものができあがっていた。そして、東京に出発。高齢のため輸送には気がついた。2 年ぶりに世田谷の馬事公苑につくと彼女の腰は痛んでいた。やはり長距離輸送は彼女には負担だったらしい。馬事公苑内を馴致。彼女の性格上かなりいらついていた。今まで以上に。運動もまともに動かすことはできなかった。フレンド

リーでは、自分は緊張しており、彼女は腰も痛いし落ち着きも無く準備運動はろくにできなかつた。障害は確か3つ反抗された。できるだけ多くの障害を飛んでおいた。1走目。彼女は相変わらず落ち着くことはなかった。彼女は異様に前に出たがり、コントロールしきれず結果は減点15。2走日も減点16。結果は39位。人の実力の差を感じさせられた。彼女にはもっと上の実力はあったはず。

自分の後、竹本（平成13年卒）、杉山（平成14年卒）に乗り替わったが、残念ながら全日への権利は獲得できなかった。しかし、最後に堀内が再び彼女を東京に連れて行ってくれ、有終の美を飾れたのではないだろうか。

最後に、北蘭号に関わった全ての人を代表して。

北蘭号へ

北大馬術部に貢献してくれてありがとう。そしてお疲れさまでした。

## ひだかの引退によせて

平成14年卒 杉山 賢治

最初にヒダカと出会ったのはまだ厩舎が18条にあった時だった。気品がある馬で良い家の出のお嬢様の様だった。下級生の私は相手にして貰えなかった覚えがある。「私に触るなんて10年早いわ」といわれているみたいだった。1年目の時は大切な馬、難しい馬ということ、脚に怪我をしていたこともあり、殆ど乗せてもらえなかった。唯一記憶にあるのは外乗で跨ったぐらいか。2年目の時は大崎兄が北日で騎乗した。そして北日本での活躍。

（しかも伝説のゴール後+1障害）彼女の障害飛越は抜群だった。スーパーホースってのはこのことだと思った。やっぱ馬には羽がはえているんだとを感じる。そして3年目の時は竹本兄が騎乗。すでに高齢の域はとっくに越えている。その為か馬体の背中と腰に不安を感じることはあった。しかしスーパーホースは今だ健在。単一のメータ20でも楽々飛越。年齢を感じさせない動きだった。（特に障害。人間でいえばお婆さんのはずなのだが。）

4年目（H13シーズン）で私が騎乗することになった。年齢の影響からか、馬体に少々不安はあった。体が硬く筋肉を大きく使った運動ができなかった。すぐにチャカチャカする。右手前も芳しくない。障害前で踏み切りに詰まると拒止する難点があった。でもそれらは、ほぼ騎乗者の責任だったと思う。今思い出してみてもヒダカは凄かった。障害の時の向かう気持ち・執着心？はすごい。調子のよい状態の時は安心して経路走行ができた。騎乗者が目を瞑っていても飛んでいたと思う。障害モードになった時の力は凄かった。なぜあんな細い体で飛ぶことができるのだろうか。

ノーザンホースパークでのヒダカとの北日本学生馬術大会は僕にとって一生忘れられない

い思い出になった。あの時の空は青かった。あの空の青さは、一生！たぶん墓場まで？忘れない。二回走行に出場した。もちろん自分では権利をとるつもりでいた。主将として、2人しかいない最上級生としてとらなければならなかった。また確実に取れると思い込んでいた。開催地がノーザンホースパークで地の利がある。調整も順調に進んでいた。前夜には何回もコースをイメージして経路走行は万全。そして迎えた一走目は荒削りながら順調だった。権利圏内であり2走目でオオボカをしない限りは東京は確実だと思った。

そして2走目が始まり出だしは順調。一走目より好調で今日は行けるなど感じた。(多分見ていた人もそう思ったのではないかな)トリプルも躊躇はしたが無難に通過した。最終ラインに到達し権利は確実(落下でも反抗でも圏内、そう落馬さえしなければ)最後のオクサー障害の向こうに東京が見えていた。瞬間にちょっと高いかなと感じた、そして脚を強く使った。馬が力んだ。その後はよく覚えていないが歓声がやみ沈黙。僕は空を見上げていて立ち上がることができなかった。その時の空は青かった。(ほんとにみんな、そしてひだかには申し訳ないと思う。)

ひだかと過ごした馬術部生活はよい経験になった。人生なにもかも(遊びと勉強)捨てて馬にと共に生きる時間があってもいいと思う。朝は4時台に起床。馬の世話(夕当)は毎日休みなし。バイトをしてもお金は馬の餌代に。あと先輩は怖い…。入部当初は馬房掃除をしながらふと僕は何をしに北海道(大学)に来たんだろうと感じることもあった。でも最後の一年間ひだかとすごし馬を動かすこと、人馬一体になることを経験した時はとても感動した。ひだかに乗っていなければ味わえない感動だったと思う。

「馬はみんなの夢の結晶である」2年の時にどこかで読んだ本に書いてあった。多くの人の手を通し育てられた馬。決して自分だけではなく先輩、ドンハ、下級生、OB、先生方、多くの人の手・労力そして夢を通しての馬がいる。ひだかに乗ることは脈々と受け継がれた夢を受け継ぐことであると思う。僕はその夢の結晶をうまく御することができたかどうかは分からない。しかしひだかに自分の夢を注ぐことができたと思う。また自分が騎乗者から引退した時、その夢をひだかと後輩に託すことができた。(実際、堀内君の北日本では自分の時のようにドキドキして大会を観戦した。また全日本の出場を聞いた時はとても嬉しかった。)

実際はほとんど思い出話になってしまって申し訳ないと思う。今シーズンでひだかも引退し、今頃は石狩の小野さんの所で雪と戯れているのだろうか。この部報には多くのOBがひだかについて寄稿すると聞いている。脈々と引き継がれた馬(夢)に一瞬でも跨ることができた部活に感謝したい。そして夢を共にしたひだかにも。

僕が北蘭号に乗るようになったのは冬頃からで、周りの人からアドバイスをもらいながら、手探りの状態で乗り始めました。最初は休養開けだったこともあり、ごく軽めの常歩中心の運動内容でしたが、もともと背中が弱く敏感だったのに加え、1ヶ月くらいまともに運動していなかったのも、またがっただけで馬はチャカつき、前を持つと背中を張ってイレギュラーしてしまう状態でまともに常歩もできませんでした。速歩ではある程度運動できましたが、馬が焦り気味でハミにつっかかかっていく感じはなくなりませんでした。春になって雪が融け、足場が良くなって、なんとか体を使って運動できるようにしたいと思い、運動の初めに常歩で、前を少し軽く、手綱を長めにし、少し低伸気味で横運動などをし体をほぐすようにしました。その結果その後の運動で以前より大分体を使えるようになったと思います。しかし駈歩になると、僕の座りの甘さ、バランスの悪さによってどうしても走り気味になってしまうのはなかなか直りませんでした。

障害の方は、春になって徐々に始めましたが、高齢のため筋力もかなり落ちているためか、パワーがあまりなく、思っているより人が推進してあげないと、障害にボリュームがでてくるとすぐ馬がひるんで止まってしまう感じでした。また、右後駆の踏み込みが甘く右回転がスムーズにいかないのも、どうしても回転で失速してしまい、拒止してしまうパターンが多くなりました。6月頃になるとそれがひどくなり、春季大会の内容はよくありませんでした。公認に向けて、とにかく体を大きく使えるように心がけ、障害のレベルを下げ、馬が余裕を持って飛べるように練習を繰り返した結果、調子は戻り、公認ではMCを満点でかえてくれることができました。僕が乗っていた期間ではこの時期が一番馬が心身ともに充実していたように思います。北日学では福島だったこともあり、暑さバテと飼い食いの悪化によってコンディションの管理はととても大変でした。準備馬場では飛越を始めても馬の気持ちはなかなかのってこなく、経路の後半になってやっと本来の飛びをしだすといった感じで、一走日が1反2落、二走日が1反5落でした。反抗はいずれもきつい右回転のあとのオクサーでやはり不安を残しているところが本番でもでてしまいました。

代替わり後、メインフィールドの方へ離厩しましたが、その後で補欠で全日学へ出場できることになったので、しばらく北大の方へもどさせてもらい、9月半ばすぎからもう一度乗れることになりました。メインフィールドにいる間に小野さんが乗ってくれていたため、馬の口向きは良くなって駈歩でも走らなくなり、またバランスも大分後ろに戻りいい状態になっていました。しかし、バランスが前がかりにならないようにしようと思うと手が強くなってしまったためか馬が思うように前に出なくなっていました。OB戦ではMCに出て、結果は満点でしたが、力強さがいまいちで、飛越も低く、いい手ごたえではありませんでした。またやはりシーズンの終盤にきているためか、疲れの回復が遅くなっているようでした。全日学では、終始疲れ気味な感じで、なかなか力強い動きをさせることができず、結果は一走目で3反抗でした。高齢馬だけにシーズンを通して、計画的に使っ

ていってあげないと、疲れがたまってきてしまうのかもしれない。

北蘭号は神経質で臆病でしたが、ここぞという時には度胸があり、経路中では何度も助けられたように思います。

下手くそな僕を全日学に出させてくれてどうもありがとう。



北蘭号

平成9年3月11日入厩

平成14年11月24日離厩

## 北蘭号 主戦績

平成9年	春自馬	L級	2位	亀山
	北日学	2回走行	8位	亀山
	秋自馬	L級	4位	乗次
		M級C	11位	乗次
平成10年	山下杯	L級	3反E	乗次
			open	亀山
	全日学	2回走行	3反E	亀山
	半澤杯	2課目	2位	乗次
平成11年	馬場大	2課目	9位	乗次
		3課目	17位	乗次
	半澤杯	中障害	4位	大崎
	春自馬	3課目	15位	寺田
平成12年		M級C	27位	大崎
	公認	M級C	11位	大崎
	北日学	2回走行	2位	大崎
	秋自馬	S&H	4位	大崎
	全日学	2回走行	39位	大崎
	半澤杯	市川杯	14位	竹本
		河田杯	7位	竹本
	新緑	L級A	3位	竹本
	春季大会	L級A	17位	竹本
		L級S&H	26位	竹本
	公認	M級C	26位	竹本
	平成13年		L級S&H	15位
北日学		2回走行	13位	竹本
		新人新馬	1位	浜田
			7位	国井
国体予選		L級A	3位	杉山
半澤杯		河田杯	14位	杉山
新緑		M級C	2反E	杉山
春季大会		L級S&H	11位	杉山
		M級C	20位	杉山
公認		2回走行	落馬E	杉山
北日学		新人新馬	open	堀内
平成14年			L級B	9位
	秋自馬	L級S&H	5位	杉山
			13位	吉川
		太秦杯	open	堀内
	半澤杯	L級A	16位	堀内
	新緑	M級C	2反E	堀内
	春季大会	L級B	6位	吉川
		M級C	4位	堀内
	公認	2回走行	11位	堀内
	北日学	L級A	15位	吉川
	国体予選	L級S&H	2反E	吉川
	全日学	2回走行	3反E	堀内

### 37年入部同期会賑々しく開催

37馬術部同期会ネット

早いものです。もう40年もの月日が流れておりました。

ポプラ並木の東隣りにあった第1農場の一隅、北海道大学体育会馬術部の門を叩いたのが昭和37年でしたから、昭和77年の現在、確実に40年を経てしまいました。

同期入部は合計27名、団塊の世代でした。練習と作業の厳しさに耐えられず、一人、二人と退部していったものの、がむしゃらに馬に乗る者、同期生には負けまいとしがみつくもの、退部勧告にもめげずにかろうじて尻尾にすがりつく者など、様々なかかわり方ではありましたが、たくさんのメンバーが居残り、今日に至るまで今昔の馬に想いを寄せながら交流を保っております。



【昭和37年入部生の記念撮影】

最近、メールという文明の利器がありますので、「37馬術部同期会ネット」を組んで、日々刻々の情報交換を楽しんでいます。とは言っても、なかなか顔を合わすチャンスがなく、帯広や札幌で5年ほどの周期で同期会を開催した他は、東京で少人数の会合を行う程度でありました。入部40年の節目に当たり、誰言うともなく大々的に同期会を開催しよう、それも馬術部に在籍した全員に声をかけよう、日頃から飼い付けや手入れで世話になっている連れ合いにも出来るだけ参加してもらおうという話が纏まり、松尾英彦が幹事役を買って出て、着々と準備が進みました。

まず、開催時期は、愛馬リッチステートを馬術部に寄贈して単身英国はソリハルに留学中の、近藤喜十郎の帰国日程に合わせて、平成14年7月下旬に決定しました。次に、開催場所は、馬術王国北海道の現役選手として活躍しており、自宅の庭を乗馬倶楽部に仕上げようとボロ掃除を奥様にまかせて黙々作業している、高野文彰の住む帯広市郊外の音更と決定しました。「高野ライディングクラブ」の旗揚げを同期の馬乗りが集って祝うという、40年目の同期会には格好の名目が設定出来ました。

以降、メールのネットを駆使して猛烈な呼びかけを開始、15名の同期メンバーの参加申し込みを得ることができました。

月日はあつという間に過ぎて、7月27日を迎えました。緊急の用件で1名が参加できなくなったものの、空路・鉄路・陸路を辿って、14名のメンバーと同伴者は、集合地と定められた帯広の北、然別峠の最も奥に在る秘湯、菅野温泉に参集と相成りました。

参加者を50音順に記しますと、

小栗紀彦夫妻、梶山泰嗣夫妻、加藤孝志、河合晴夫夫妻、黒澤道雄夫妻、呉富士彦、近藤喜十郎夫妻、高野文彰夫妻、高橋昭夫、藤井毅、松尾英彦夫妻、八木多賀子母娘、八木澤守正夫妻、山村勝、そして特別参加の加藤正昭（昭和38年入部）夫妻の総勢25名でありました。



【40年後の参集】

菅野温泉は、館内に七福の湯という異なった7つの源泉の内風呂を持ち、また近在にたくさん露天風呂があります。そして、どれもこれも混浴という素朴さです。到着後、松尾・高野幹事による部屋割りがあり、直ちに温泉巡り、あるいは然別湖へとそれぞれ勝手な行動、ただ一つの約束事は、午後7時開始の大宴会までに戻ってくれば良いだけ。

旅疲れ、温泉疲れも何のその、定刻前には全員集合、卒業以来1度も見ていない顔があっても、また初顔合わせの姫達（今回の同期会では奥方を「姫」と呼ぶことで合意しておりました）も既に混浴で裸の付き合いとなっていて、座は大いに盛り上がりました。

北海道ホースマンアカデミーの馬学教官で、相変わらず乗馬の真髄に頑固な主将小栗の挨拶に始まり、山形県馬術連盟の役員を務める副将山村の音頭による乾杯、各人の自己紹介と滞りなく行事が進み、近況と思い出が交錯し、宴会終了は何時だったのでしょうか……。入部以来、私たちを育ててくれた8頭、北颯、北涼、北翠、北楊、北嶺、北楡、朝清そして北翔（入部当時の馬順）との思い出を語りながら、心地よい夏の夜が過ぎて行きました。

思い浮かぶは、先輩の活躍、我が戦歴、酔いが加速させる甘い追憶。入部4ヵ月目に味わったドシャ降りの北大招待全日本女子学生馬術競技会での箱番・馬匹番の辛さ、師走の馬事公苑で3期上の先輩達が勝ち取った全日本学生馬術王座決定戦の優勝カップの重み、2年目の夏、東京遠征での学習院・明治・法政・中央・青山学院との対抗戦、4年目の岩手で開催された王座決定戦北日本予選の涙、同じ時期に東京で行われた第1回全日本女子学生馬術競技会（北大招待が学生馬術連盟の公式戦に発展）での八木多賀子の選手宣誓と準優勝……。忘れもしない夏の名古屋森林公園、国立七大学総合体育大会での優勝（金城学園箏曲部員との交歓会も甘く捨て難く）、その帰路に東京OB会に催して戴いた祝勝会

での、ずっしりと重い東久彌宮盃から喉に流れ込んだビールの美味さ・・・

尽きぬ話で、二次会が三次会へと流れ、野付半島産北国シマエビを肴にワインあり、日本酒ありの宴席は終わることを知らず、ホテルオークラ特製の馬の図柄（特注：実はこの馬とても痩せておりました、誰とは申せませんが半澤教授のお許しを得たと称して農場から引き抜いた人参で腹を癒した貧乏学生の頃を彷彿させる一幕ともなりました）のケーキや、磐田から届いた早生みかん、加藤正昭君からの心籠った差し入れ（千秋庵のアイスクリームの懐かしく美味しかったこと）もあり、姫達も納得のデザートタイムまで。

翌28日、早朝から然別湖に向うグループ、川の畔の露天風呂に向うグループ、宿の温泉を再び楽しむグループ、惰眠を貪るグループとそれぞれ別行動をとりながらも、一同に会して朝食を摂ったのは、合宿で培われた習性の為すところでしょうか。

その後、宿のマイクロバスと3台の車に分乗して、途中、開拓の厳しさとたくましさを描いた神田日勝記念館にて未完成の「馬」に心を洗われてから、高野ライディングクラブに到着。

ライディングクラブでは、高野の愛馬テキーラ号とカルバドス号の2頭に交替で騎乗を楽しませてもらいました。日頃鍛えているものは伸びやかに、サボっているものは国体馬を壊してはならぬとビクビク、日頃の不養生で体ガクガク、姫達は恐る恐るの風情などさまざな姿ではありましたものの、十勝の大地での乗馬をそれぞれに満喫したものでした。

それにしても、流石と思えたのは、八木多賀子（と八木正巳先輩）のお嬢さんの乗馬姿のキマッていたこと、とても初めてとは思えませんでした。

姫達を馬上に誘う世話役をさて置いて、一方では既にパーベキュー大会が始まっておりました。



【高野ライディングクラブでの語らい】

パーベキューの素材は、地元のコネで仕入れた溜息の出るような十勝牛霜降ブロックと、築地直送本マグロのカマがメイン、同期会では毎度お馴染み花咲ガニが豪華さを添えておりました。そして、働かない約束であった姫達が手伝っての高野姫お手製のサーモン押し寿司、それらに加えて、藤井シェフのサラダ、松尾板長のイカ刺などなど、メニューはエンドレスの様相でありました。

とは言っても1キロずつのマトンを食べた若さは既になく、第一幕を締めての酔い覚しということとなり、高野ランドスケープ設計によるユニークな庭園に建つ設計事務所の見

学や、小栗宅にて夫妻の陶芸作品の鑑賞、あるいは呑み続けたり、酔い疲れてまどろんだり、思い思いの時間を過ごしました。

第二幕は、クラブハウスに上がり込み、シャンパンで乾杯、壁一面に貼られた現役時代の懐かしい写真の拡大コピーで盛り上がった後は、我が同期の誇る文化色溢れるショータイムとなりました。八木のピアノリサイタル（母娘の連弾は見事でした）に始まり、歌集を上梓した河合姫による短歌朗読、芸術家藤井による童話を題材の版画作品披露、松尾姫の歌曲独唱と続き、安らぎのひとつが過ぎていきました。

夕食は宿の好意で手打ちの天麩羅蕎麦となり、一同、行儀良く賞味したまでは静かでしたが、部屋に戻って、待望の二次会が極めて当然のごとく始まりました。日本各地の銘酒の盃が進むにつれ、満を持して幹事松尾が小物を取り出し、松尾姫猛反対の中決行された「ガマの油売り」と「大塩平八郎の鯨獲り」の大道芸には、姫達の笑い転げること例えようもなく、これも立派な江戸文化と一同は納得した次第です。ところが、その後一転して大変なことになりました。突如、Kが検事に変身し、同期の全員に厳しい尋問を開始したのです。曰く、「そもそも馴れ初めは？」。「エー、五番館で一」と滑らかに応える者、「それは・・・、それは・・・」と返答に苦しむ者、「釣り書が山ほど届いて」と正直に回答する者、「私が悪いのです」と謝る者、あるいは姫君が代わって答える者、それは様々でありましたけれど、当の相手を目の前にして、しかも不審な供述に対しては容赦なく追求がなされ、弁護士なしでの答えは本当に厳しいものでありました。

そうこうする内に、3日目の朝を迎えました。お別れの日です。

誰が掘ったか川のほとりの露天風呂に、石をずらして冷たい清流を注ぎ入れて温度を調整しつつ、苔で身体をベトベトにしながら、恐れ多くも姫たちに許された下男達が混浴の光栄に浴しながら酔いを覚す姿は、別れを惜しむ名残りの風景であったと申せましょう。



【然別川秘境の天然露天風呂を楽しんで】

この後、道内旅行を楽しむもの、仕事に向向くもの、車で、また帯広空港から飛び立つもの、それぞれが楽しい思い出を一杯詰めて、散会となったものでありました。

後日の話となりますが、河合姫に触発されたメールが飛び交い、十勝の大地を想う短歌が詠まれました。

その内の幾つかを紹介します。

まず伸びやかに

八木多賀子

清流に 浴いて散らばる 露天風呂  
自然に抱かれ 恥も忘るる

サイロを無用の長物とした牧草ロールを見て、同じ上の句にて競作

黒澤道雄

朽ち果てた サイロの脇の 巻き草に  
青春の苦味 包みこまれし

梶山泰嗣

朽ち果てた サイロの脇の 巻き草に  
過ぎし想いを 語りつくして

河合幸子がまとめて

卒業の のちの人生 ほの見せて  
頭髪白き 薄きが集う

川べりの 露天の風呂に 声季ぐる  
昔少年 少女らの笑み

落の葉の 連なる山の 道の辺に  
こちら何う エゾシカの群

37年入部生が、自分たちだけの私的な集まりを公の部報に載せようだなぞと、まこと恐縮でございますが、「よし俺たちも」となるきっかけにでもして戴ければ投稿の価値もあろう、と言うものであります。

長なが、お付き合い有難う御座いました。

(原作 梶山泰嗣、脚本 八木澤守正、振付 黒澤道雄、音楽 八木多賀子、監修 高野文彰 歌指導 河合幸子、時代考証 近藤喜十郎、出演 37馬術部同期生とその家族 友情出演 加藤正昭夫妻)

卒部してから早15年。6年前に札幌に戻り、仕事（飼料の販売）を通じて再び馬術部と関わる様になった。その間、クラブは18条通りから、24条通りに移転し、以前では考えられないような立派な部室、厩舎、広い馬場が完成された。それを機会に、厩舎に飼料タンクをつけ、少しでも合理的に、安く飼料を提供できるように考えた。まさかこんな形で後輩相手に商売するとは思わなかったが、価格を聞いて業者にかなりぼられていることがわかった。少しでも、クラブの役に立てばと思い、現在は自分の人脈を生かして、さまざまな業者との仲介を頼まれば行っている。

現在、自分は現役の時親交の深かった石狩にあるオーフルホースコミュニケーションという乗馬クラブの会員にはなっているものの、全く馬には乗っていない。毎月、月会費を払いながら「子供を連れて乗りに来い」とオーナーの斉藤武彦さんにいわれるが、なかなかその気になれないのが実状である。体力的にはまだまだ自信はあるつもりだし、卒業してからも5～6年は馬に乗り、試合などにも出たりしていた。でもやはり、この札幌で馬に乗るからには何か中途半端な気持ちでは乗りたくないといった潜在意識がブレーキをかけている気がする。それだけ現役の時の活動というものが、強烈に脳裏にこびりついているし、その後の社会人人生においてかけがえのない体験になっているのだろう。

話はそれるが、社会に出て15年もたつとそれなりの立場で仕事をするようになり、新卒者や中途の採用に関わる様になった。人事を通じて、様々な人間の人生やその人間が属した組織を見ることで、社会の景気などを肌身に感じるようになった。そして痛感するのは、人間同士のコミュニケーションの取り方が下手くそな人達が増えてきたということである。人の話が聞けない。なかなか本音で話せない。自分の考え、想いが無い。等々である。自分も組織の中で痛感するのは、今の時代は、俗に言う体育会系的な上から下への一方通行的なコミュニケーションだけでは、物事を上手に進め、目標を達成するということが難しくなっているということだ。お互いにキャッチボールを重ね、お互いの考えや想いが引き出されるような双方向のコミュニケーションが日々のやりとりの中で重要になってきている。最近、現役部員と飼料の講習会を通じて、飲む機会があった。以前からも感じてはいたことだが、部員同士が本当に日頃考えていることや、想っていることをぶつけ合う（議論する）習慣がなさすぎる。全員が、過去の習慣に流されて何も本質をとらえずに活動を行っている雰囲気のみでとれる。（考えてはいるのだろうけれど、誰も言わないからそのままにしているだけなのだろう。）確かに、北大馬術部には本当の指導者はかけているし、他の大学と比べてハンディーに思っていることも理解できる。しかし考えようによっては、それが大きな強みでもあるはずである。自分達で考え、自分たちで話し合い、たてた目標（あるべき姿）と現在の自分達の実力とのギャップを把握し、そのギャップを埋めるための行動計画をたて、実行していく。1人1人の技術力の向上は当然として、クラブとしてこのようなプロセスを経ているかどうか？もう一度考えてみて欲しい。

まさに、先に述べた双方向コミュニケーションが部員同士、OBとの関わりの中で習慣として、できていないとやれないプロセスなのだと思う。確かにこのことは一代の部員だけの力ではできないことではあるが、みんなが危機感をもって、目標に向かえば不可能な事ではない。指導者は不在かもしれないが、北大馬術部を一つの組織と考えれば、主将というリーダーは存在しているし、OBというコーチは存在している。あとは周辺にいる技術指導のできる人たちをいかに上手に使うかである。よく思う事であるが、いかに物事を指導しようと一生懸命教える場をつくっても、教えられる本人が自分の強み、弱みを自覚し自ら考え成長しようという気にならなければ何を教えても身にはならない。どんなに学生馬術のレベルが上がろうとも、全ての大学の選手がオリンピック級の選手であるわけではない。過去にOB達が残した成績を越えることは可能はずである。1人1人の能力には確かに限界はあるだろうが、チームとしてとらえたときの能力の相乗効果というものは無限である。単なる個人のやる気だけでなく、チームとしてのやる気、雰囲気をつくって欲しい。その為にも、1人1人が個性をぶつけ合い主役となって活動する事が一番だと思う。

OBとして、自分が現役の為にやれることには限界はあるが、個人の技術力向上に関して各自がバラバラに行うのではなく、クラブの雰囲気、練習内容が各自の技術力を引き上げる。そんなクラブの雰囲気が感じ取れるよう、身近な立場にいるOBの1人として、これからも現役部員の活動を見守っていきたい。

## 北大水産馬術部活動報告

平成13年12月～平成14年10月

前主将 小野元也

早いもので、北水馬術部が再発足してから約2年が経ちました。昨年度の部報で、平成13年11月までの活動を書かせていただいたので、今回はそれ以降の活動を記します。すでに主将は後輩に譲っていますが、この期間は我々の代の方が長いので、前主将の私からご報告いたします。

平成14年 4月 岩手大学招待試合に参加（岩手大学）

\* 岩手大学馬術部のご好意で、参加させていただきました。選手は、函館で馬術を始め、馬歴1年半になる4年生コンビ、平野（バリアント号）と吉田（厚竹号）。平野は馬にも助けられ満点でゴールを切りましたが、吉田は3反抗失権で、残念ながら1回戦敗退となりました。大会後はレセプションに参加し、交流を深めると同時に、今後の巻き返しを誓いました。

6月 北日本学生馬術選手権大会に参加（ノーザンホースパーク）

\* 同じく平野、吉田で参戦しましたが、2人とも結果は散々で、1回戦敗退でした。無論実力の問題もありますが、ともに競技課目の修練不十分の影響は大きかった様で、競技に対する練習の見直しが改めて迫られたと思います。

7月 代替わり

\* 選手権が終わったことと、4年生は多忙な時期に入っていることから、代替わりをこの時期にし、幹部職の交代を行いました（ただし代替わり後4年生も、現役の活動を妨げない範囲で、活動しています）。主将には塩崎が選ばれましたが、全員が函館移行後に馬術部を始めた代でもあるため、人に頼らず皆で仕事をして行くという姿勢が強く確認されました。

10月 新入部員が加入

- \* ビラ配り、説明会、見学会など積極的に新歓活動を行い、本学経験者はいないものの、計9名（男5名、女4名）の新入部員が入りました。

山下杯・河田杯記念馬術大会（酪農学園大学）に参加

- \* 昨年に引き続き招待していただき、貸与馬で参加。3年生は実力面も含め、この時期試合に出たいという人間がいなかったため、4年の平野、吉田がLBで出場（乗馬：緑華号、ロイヤルブルー号）。順位はそれぞれ9位、5位でしたが、両名とも満点で走行。

北大OB戦（北大（札幌））に参加

- \* 対抗戦ではありませんでしたが、平野（部班、LB：北旋風号）、吉田（80cm級：サラマンダー号）が出演。LBでの平野はコース確認不足などのミスで反抗してしまいました。吉田は満点で走行。本学の部員とも交流を深めました。

モモセダービー（モモセライディングファーム）に参加

- \* 平野、吉田がともにLB、モモクイーン号で参加させていただきました。二人とも反抗され、失権。馬に飛ぶ気が欠けている時の対処力不足が露呈されました。  
北大OB戦とモモセダービーは私が帯同できず、付きっきりで助言できる人間がいなかったこともマイナスだったと思います。

現在部員は、2年生9名、3年生7名、代替わり後も乗っている4年生3名を含めると、合計19名になります。練習はこれまで通りJRA函館競馬乗馬センターで乗せていただいております。水、木、金曜の早朝と、土日祝日の午前中に行っています。試合は、上記のような貸与馬競技のある大会に参加させていただいています。

以前に比べ、人数は非常に増えました。部にも活気が出てきました。代替わりした素人集団の3年生たちも、何とか部を良いものにしようと意識を持って頑張っています。

しかし、本学や他の馬術部と比べれば、「甘い集団」という印象がまだあると思います。確かに練習の強制参加がなければ自馬や厩舎を持って管理しているわけでもなく、何より活動のスタンスを個人の自由とし、団体として大会を目指していないという部分で、他と異なる形にあるのは事実です。しかし私たちにも私たちの環境があります。私が把握する

現状では、自馬や厩舎の所持や、団体での大会志向統一をはかった上での部存続は厳しいものがあります。ではそれらが、部の存在意義に不可欠なものであるか、それら無しでは部として意味がないかと問われれば、私は、そうとは言いきれないと思います。馬術上達の面白さ（大会に出られる環境はあるので、目標にして活動することもできる）、馬と関わっていく活動や、制限された環境下でどれだけ良い部を作っていけるかなどの組織運営を皆でやっていくことの意味と楽しさなど、共通の目標ややりがいとなり、現在の形でもかなえられる意義が十分あると思うからです。もっとその可能性を追い求めていいと思います。

えらそうな文章を書き連ねましたが、まだそういった意義が完全になえられるほど部が成長している訳ではありません。2年近くも主将をやっているながら、ようやくこの辺を皆に浸透させだしたところで、代替わりとなってしまいました。ただ前述のように、新幹部の3年生もしっかりやってくれているので、自分たちのためにも、これから更なる発展を目指してやってほしいと思います。私も、今後も何らかの形で部を助けていこうと思っています。

最後になりましたが、自分たちのことで頭が一杯になりがちな私たちに、温かいご助力をくださっているすべての関係者の方々に、心より感謝いたします。今後も、どうか北水馬術部をよろしく願います。

## 卒部にあたって

☆ 加藤 幸作（前副務・北日幹事、理） ☆

4年間馬術部を続けてきて思うことの一つに、この部活には信頼というものがある。今年耐久を満点で帰ってこれたのは少なからずスズとの信頼関係があったからだと思っただけで自分では思っている。やはり馬を信じていなければ自分も馬から信頼されないと思う。

次に部活のメンバーに対する信頼。僕たちの代は決していい代であったとはいえないと思う。これは僕たちの中での信頼関係ができていなく、お互いにどうせ自分の言うことなど分からないと思っただけでそれぞれノータッチだったからだと思う。この部活は20人そこそこの個人が集まった社会で、互いの意見が異なるのは当たり前だし、むしろみんなが一緒のことしか考えられなかったら成長していかないと。大切なのは意見をぶつけ合うことだと思っただけで。いまさら言ってもしょうがないことなので、現役の皆さんは意見をぶつけ合っていい北大馬術部を作ってってください。

一卒部してもかわらない。おやじって感じ。いつもニヤニヤしてますね。

一お見舞いにトマトを持っていくのはやめましょう。

一ネコ馬術。現役時代の兄は作業着のイメージ。たまに正装コンパでスーツを着ると・・・だったが、それも過去の話？

一兄の運転で三日ぐらい寿命がちぢんだ気がしました。

☆ 国井 千恵子（前主務、獣医） ☆

最近、巷では「異文化コミュニケーション」という小難しい言葉が流れていますが、馬術部生活とは、一種の異文化コミュニケーションだったのではないかと思います。それぞれ多種多様の考え方を持つ部員との交流、部活を通して知り合うことのできた色々な人々、団体との交流、そして馬と接し御しようとするのも、ある意味異文化コミュニケーションではないかと思います。全てに通じるのは、我を通しすぎず、周りや相手を理解し、かといって流されずにすべきところでは己を主張する、といったところでしょうか。

在部した3年と5ヶ月の間ちゃんとそれができたのかと問われればあまり胸を張れたものではありませんが、少なくとも自分は何が出来なかったのか、何をすべきだったのか、それを考えることが出来るようになったと思います。全く悔いの残らない卒部というわけではありませんが、それをおしても余りある馬術部での楽しい思い出、良い思い出、そしてOB1 日目にしてすでに感じ始めているなつかしきさでいっぱいです。

今、そしてたぶん今後ずっと、言い続けられると思います。馬術部をやっていたよかったです、ありがとう、と。

最後になりましたが、今までお世話になった皆様、気にかけてくださった皆様、迷惑を

おかけしてしまった皆様、本当にありがとうございました。

そして本当に最後に、現役のみんなへ、残りの現役生活何年か、ぜひ良いものにして下さい。精一杯がんばって後悔することは絶対ありません。4年日の8月31日、みんなが  
いい顔でいられることを心から願っています。

—気がついたらいつも杯が空になっている。姉にはついていくのが精一杯でした。

—まさしく“姉”って感じ。

—仕事をこなす姉の姿は本当にカッコよかったです。

☆ 堀内 太郎 (前車輜、農) ☆

今思えば、現役の時家は家でぼーっとしてる時も、授業中ひまな時も、馬を曳いてる時も、長岡さんの畑で草を抜いてる時も、どうしたらうまくいけようかとか、明日はこうしようとか、こういう風にできないかなあとか、そんな事ばかり考えていた気がします。もうこの先こんなふうには他のことをほうりだして1つのことにうちこめるそんな時間はないかもしれない。他とは別の馬術部による時間の軸だけに従って生きていたような幸せな3年半でした。それを思うと、卒部して落ち着いた今、あの時に戻りたいというのは少し違うけど、馬術部で部員として活動していたあの時の自分を時々少しうらやましく思ったりします。また馬と関われたらいい、そう思います。

最後になりましたが、お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。迷惑をかけてしまった方々には深くお詫びします。

—投げやりなようで、いつもまわりのことをしっかりと考えている兄。頼りになります。

—ごくごく最初は寡黙な人だと思ってた。But 酒席での兄は饒舌。そんな兄もスバラしいけど・・・、クロに落書きするのやめませんか？

—太郎兄と飲んだ いいちこ はとても美味しかったです。

—すいません、酔った兄には近寄らないようにしていました。

☆ 山口 剛司 (前主将、理) ☆

馬はかわいいです。

ヤノゴ、トル、ドリ、バブ、モア みんなかわいかったよ。

ありがとう。

—馬とのつき合いにおいて絶対に妥協しないその姿勢からは多くの事を学びました。

—良くも悪くも子供のような人。トル&ドリ命。

—サッカーをする姿がとても無邪気でした。

☆ 吉川 幸江（前会計、文） ☆

馬術部から離れてしばらくがたちますが、今更ながら負担の多い部活だったなあ…と感じています。生き物を飼う上での時間的拘束はもちろん、部員同士のコミュニケーション、練習、作業など、挙げればきりが無いほど色々な要素を含有していると思います。でも、だからこそやりがいのある部活であるし毎日が充実し楽しいものになるのでしょう。

私は競技会で戦績を残すような立場にはなかったのですが、馬術部が大好きだしとても大切に思っています。馬に乗る楽しさ、馬に接する幸せ、自分の生活のほとんどを部活に費やして部員同士で活動する充実感。馬術部にはたくさんの方を教えてもらいました。また、一緒に現役時代を過ごすことができた先輩、後輩、そしてドンパに出会えて本当に良かったです。先輩方には酔って暴れたり馬鹿なことをして御迷惑ばかりかけてしまい、それでもよく面倒をみて頂き本当に感謝しています。後輩のみんなには、技術面でのアドバイスなどは全くしてあげられずに申し訳ないです。でも、一緒にバイトや作業をしたり選手の応援をしたり、色々なことを一緒に頑張ってくれて本当にありがとう。そしてドンパには、3年半たくさん支えてもらいました。彼らのことは無条件に大好きで、私にとって本当に大切な人たちです。

これから馬に乗り続けられるかは分かりませんが、何らかの形で馬と関わりを持っていきたいと思っています。馬ってすばらしい！

最後になりましたが、市川部長をはじめOBの皆様には本当にお世話になりました。後援会を担当していましたが、足りない部分も数多くあったように思います。それでもたくさんの方がアドバイスを下さったり、大会の応援に駆けつけて下さったりと、OBの皆様が馬術部に対する思いを感じるとともに嬉しく思いました。本当に、ありがとうございました。

—口にどんどん食べ物をつめ込むのはやめて下さい。

—すごいバイタリティ。時々、そのハイテンションについていけなくなるけど、あのパワーは尊敬。

—姉ほど馬を愛することは誰にもできないと思います。

## 部員紹介

### 3年目

#### ● 木村 滋之（副将・馬匹・北日幹事、農） ●

最後の一年、がんばっていこう。

—いつもおごってくれてありがとう。

—食に食欲な東京っ子。何でもそうじしてくれる。

—なぜかいじめられっ子。

—馬に乗っている時はカッコ良い。でも同級生方にいじられる姿は痛々しい。でもそれを下級生にあたるのだけは、どうか……。

—<sup>マクシムバイク</sup>目転車マジ速いっす。

—僕はあの一言が忘れられない……「ゲネボン」

#### ● 佐賀 由美子（後援会、獣医） ●

いよいよ馬術部生活最後の年。悔いのないようがんばろう。

馬のちょっとした仕草にうれしくなった時なんか、こういうのもイイねと思う。あーあと思うことも多いけど、やっぱり好きだなと思う今日このごろ。

—世話好き。

—豪快……らしいですね。

—料理上手、在札の時はいつも疲れを癒してくれる料理でみんなを迎えてくれる。

#### ● 高島 渉（会計、水産） ●

水産なのに4年間やることになりました。残ったからには頑張ります。

—暴力的、かおがこわい。

—おやじギャグときどきうまいと思ってしまう。

—兄は最近僕に冷たくなっています。でもそんな中に温かさも感じます。

—僕も隠れドリラバーです。

—男なら……勝負にでるときは勝負にでないと……。

#### ● 武井 亮（記録、獣医） ●

すんげーどんくさい日々にあービート入れ、サイズの合った服着よう

—モットはきっこうだろう「ヒトのものはオレのもの、オレのものオレのもの」  
—しゃべりはテクニシャ〜ン。でも大言はいてるときはけっこうビビってるらしい。  
—よくおこる。パンツを出して歩く。足がくさい。  
—僕はプリです、ごめんなさい。  
—代が変わってから何故かハイテンション。そのテンションで最期の年をがんばってね。

● 竹田 敏宏（主務、獣医） ●

理論派です。理論派らしいです。そんな気がします。様は楽しく面白けりゃいいっす。  
残り1年間。  
今まで以上に長い1年になりそうだけど、とにかく楽しんでやっていきます。みんなで  
楽しくやっていきます。

—理論派。b u t “彼理論”は時たま訳分からん。  
—理論派、てきとーにするとおこる。  
—馬券指南してください。何でそんなに当たるんですか？

● 寺島 良（主将、経済） ●

毎日、毎日馬中心の生活が楽しいです。これからの人生も馬と共に生きたい。

—バカっぽいと思ってたら本当にバカだった。  
—思いつきでポンポン意見を出す。その発想がすばらしい。でも現実味が・・・。  
—またノーザンで泊まりましょう。  
—今年の誕生日コンパは去年の約束どおり彼女をつれてきてください。  
—なんか最近コワイ 僕は悲しいです。

2年目

● 馬場 紘子（大会関係・部報、獣医） ●

キャラかえます。頑張ります。

—その名もその名も ビロコムックブー  
—「絶対ちこくしたことがない！！」と言いはる遅刻常習犯。バツ当おつかれさん。  
—笑顔が似合う人。どうかその笑顔を絶やせずにいて下さい。  
—お菓子を発見したときの姉の目はクロのそれととてもダブります。  
—びろは曇りの日になるとひどくまぶしそうに目を細める。加藤兄も同様。

一馬場さんは変温動物です。冬眠しないのが不思議なくらい・・・。

● 前野 伸策（副務・作業、農） ●

やっとなまりもなくなってきて都会の住民になりました。

—最近は何ネが出てきたかな？

麻雀でS君とカモるのはどうかと思うよ。

—最近なまりがなくなった。はやくパートナーを見つけましょう。

—マージャンで負けている時ほどこわい前野は見たことない。

—馬のことを良く考えている。時々怒ると恐くなる。飲むともっと恐くなる。

—ブラック化した兄は見ていると楽しいです。でもその鋒先が自分に向けられるとおそろしいです。スズ外乗最強化計画がんばって下さい。そしてその後・・・。

—イメージカラーは〇〇〇〇（カタカナ4文字）。

泣く子も黙る〇〇〇〇（カタカナ4文字）前野。

最近是一緒に車に乗ると車内の空気まで口色（漢字1字）になってしまいます。

（本人の名誉のために一部伏せ字にて掲載）

● 森久保 夏樹（車輛、農） ●

人間二十年 下天の内を くらぶれば

ゆめまぼろしの ごとくなり

—型やぶりの重戦車。そんな力入れずにもっと気楽にいこうよ。欲求不満も解消されるから。

—金八先生に出た気がする。

—恋多き人かも。

—すごいモノ知り。何でも知ってる。作業系統で分からないことがあっても、この人に聞けば一発で解決できる。

—いろんな意味ですごいです。尊敬しちゃいます。

—考えすぎのロマンチスト。

1年目

● 小阪 梨奈（大会関係・部報、農） ●

思い描いていたような大学生ではない気がする、でもまあいいや。

—ボソボソと毒をはき続ける彼女 実は女部屋を牛耳っているのではないか。  
—まわりをよく見る関西人。よくするどいつっこみをみせるが、そんな君も実は大ボケかましてるよ。  
—なにかさからえない気がする。  
—プリテンダー1号。  
—毒舌。それは例え上級生に対しても衰えることはない・・・。  
—2年後あたりには女帝か？  
—小動物みたい。  
—チョコ片手に全日学は記録してました。甘いもの好きな女の子が多い部活だ。そしてたくましい子が多いですね。

● 坂本 享平 (バイト関係、水産) ●

過去にとらわれず希望を抱いてがんばりたいと思います。

—恋にはやぶれたが、自分を見失わないようにしましょう。  
—ジョン・レノンめがねがよくにあう。  
—彼は突然笑い出すことがある。突然変なことを言い出す事もある。突然奇怪な行動も起こす。一度彼の頭の中を見せてもらいたいものである。  
—野獣 とくに北日のときはすごかったよー  
—僕はあの飛び込みを忘れない (俺の潮2002夏 そして田村・・・)  
—茶髪はどうだろうか。  
—麻雀にはまらないようにね、危ないから。  
—彼の本性は野獣なので発見しだい捕獲すること。

● 利根川 正明 (飼料、農) ●

明日、また、生きるぞ！

—顔だけ見ると子供っぽい。本当は粋ながんばり屋さんなのに弱音が多い。  
—でかい。  
—グフッ、グフッ (笑)  
—彼の言動はしばしば理解不能。でもその分見えていて飽きることはない。  
—四の字固めはやめてね。  
—レンガは飛んじゃだめだよ。  
—鼻づまりが激しい。  
—無口。喋れない人なのかと思いました。最近はずこし笑顔を見るようになりました。はにかんだ姿がかわいらしい。

● 橋場 拓冬（馬備・衛生、理） ●

飢えている。あらゆるものに。

—ニヒルな笑いのはしばクン。道民なのに雪が大好き。

—エロい。

—ほっぺフェチ

—彼は一年目の中で一番の飲みっぷりを見せる。普段はおとなしいが、その分はじけた時は誰もとめることはできない。

—彼の一言は時として恐怖を与える。

—東京大学物語愛読者。

—昼食を食べましょう。

● 日野 恵介（薬品・ビデオ・カメラ、獣医） ●

誰でもある事かも知れないですが、僕は自分の事がとても嫌いになることがよくあります。ミスが多い自分、集中力のない自分、自分に甘い自分・・・。

でもだからこそ、この厳しい馬術部に最後まで所属することで、こんな自分を少しでも自信を持てるように、少しでも自分が好きになれるようになろうと思います。ガンバります！！

—食に貪欲な博多っ子。食当おかりは一番早い。他のことも1番になってね。

—ピノ

—カッコつけマン

—僕はさんざん彼をからかってきたけど、彼がいなくてものさみしい今日この頃。

● 前田 晋也（作業・企画、農） ●

ひとつ 人知れず      ふたつ 踏みしめて歩く

みつつ 道の名は      よつつ 世知らぬ影の道

いつか輝く 努力道

むつつ 空しさに      ななつ 涙流しても

やつつ やめるか      ここのつ この手につかむまで

とおく輝く 努力道

—ひよりすぎ

—高校球児、現役2号。素振りは早いですが、精神的に弱い。馬術部で変われ！

—ジャイアンみたい。

—プリテンダー2号。

—彼の特技はマネること。何でもマネる。ネタさえマネる。でも似てないことも多い。  
特に僕のモノマネは・・・。

—茶髪は何処へ。

—**悲劇！！箱番長！！！！**

<北日学> 2002.8.9~15



加藤兄と北鈴号（総合馬術競技：調教審査）



堀内兄と北凌号（総合馬術競技：調教審査）



堀内兄と北蘭号（二回走行）



山口兄と北旋風号（二回走行）



山口兄と北陽号（総合馬術競技：耐久審査）



木村兄と北彗号（総合馬術競技：余力審査）



木村兄とウッドバイン号（二回走行）



竹田兄とリッチステート号



寺島兄と北斗号（二回走行）

<全日学> 2002.11.10~17



全日学出発式

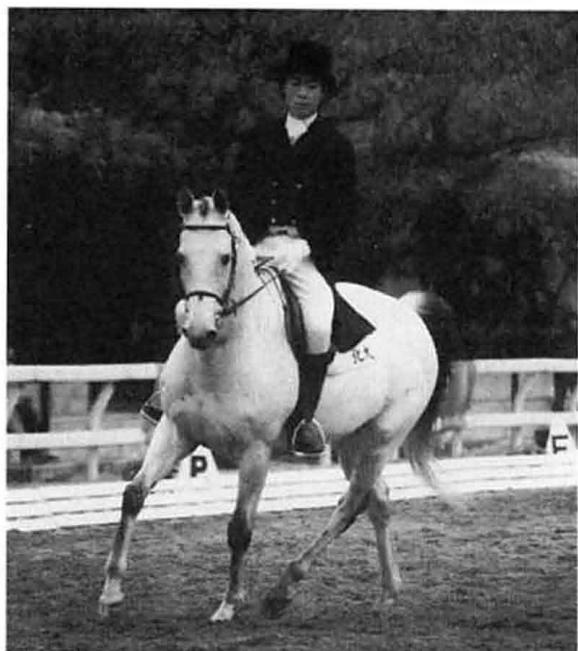
(一列目左から、竹本兄、加藤兄、堀内兄、市川先生、寺島兄、中田兄  
二列目左から、森久保、竹田兄、小阪  
三列目左から、前田、利根川、橋場、坂本、国井姉、佐賀姉、高島兄  
四列目左から、日野、吉川姉、馬場、木村兄、前野  
馬運車左から、北蘭号、北慧号、ウッドバイン号)



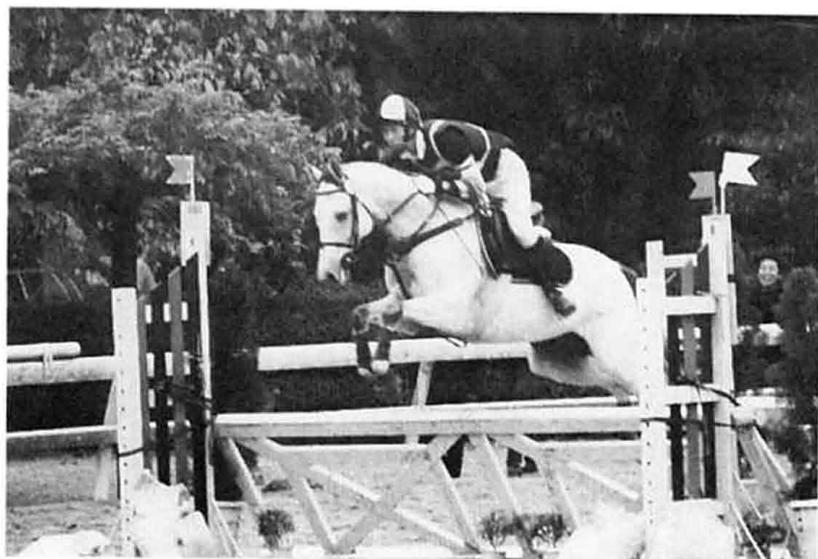
堀内兄と北蘭号（二回走行）



ウッドバイン号（S.36卒の大場氏より寄贈）  
（前列左から、日野、小阪、寺島兄、堀内兄  
後列左から、利根川、前田、木村兄、ウッドバイン号、吉川姉）



木村兄と北彗号（総合馬術競技：調教審査）



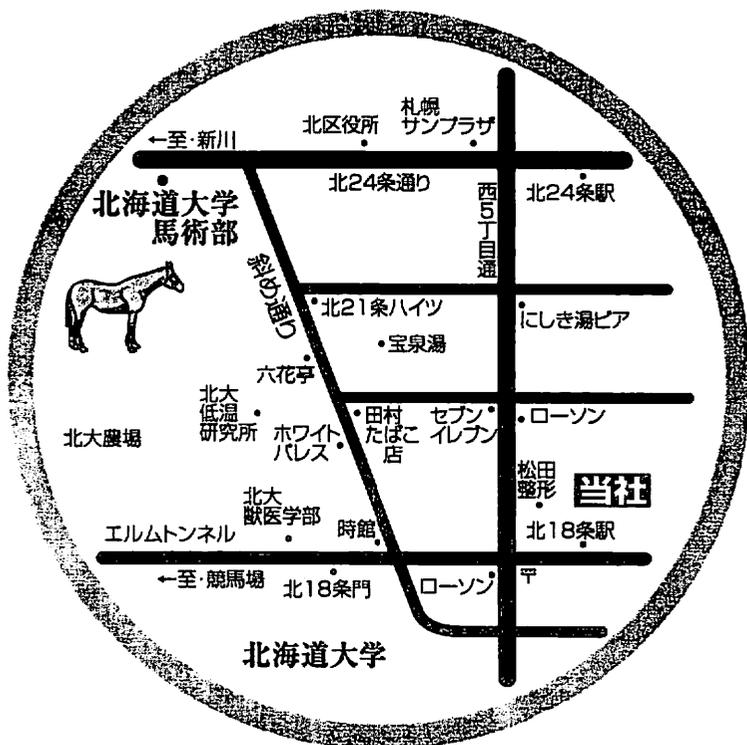
木村兄と北彗号（総合馬術競技：耐久審査）

貸家・下宿・貸間・学生会館・貸駐車場・事務所・店舗・賃貸売買・仲介

# アパート, マンション

(取扱エリア) 札幌市内全域および近郊

・・・北大周辺、とくに『ななめ通り』は、まかせて!



info@estation-h.co.jp

家賃値下げ、諸費用・仲介料値引き、条件交渉etc.頑張ります!  
ご相談の時に「北大馬術部関係者です」と、お伝えください。



有限会社 **エステーション**

札幌市北区北18条西3丁目21 セイコーマート向かい

Welcome to Estation

☎ 011-709-8850 ☎ 011-709-8851

# がんばれ！北大馬術部

スポーツ用品のご注文はぜひ生協へ！  
オーダーマーキングも承ります。

購買北部店 747-2181 北大内線 5424

会館店 1階 746-6215 北大内線 2979

## 北海道大学生生活協同組合

〒060-0808北海道札幌市北区北八条西七丁目

電話代表 746-6215 ファックス 709-7747

北大内線 2979

MEIJI

もう乗り越えどろ。



移行期さえうまく乗り越えられれば、もっともっと……。

移行期管理に関するご相談は、是非養牛用飼料専門メーカーである明治飼糧にお任せ下さい。  
弊社では、お客様個別の現場事情にあわせた移行期管理方法をご提案させていただきます。

お問い合わせは、最寄りの弊社支店・営業所、または下記のフリーダイヤルまで。

明治飼糧株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-20-4

☎ 0120-49-9141



# HORSE TREKKING

ライディングエリア



馬車



観光乗馬(ひき馬)

馬を知る、馬に親しむ。  
初心者から上級者まで、さまざまな形で乗馬を楽しめる施設と環境が整えられています。  
●乗馬コース(ライディングエリア、インドア乗馬場、林間コース) ●ひき馬 ●観光乗馬 ●ポニー広場



テニス

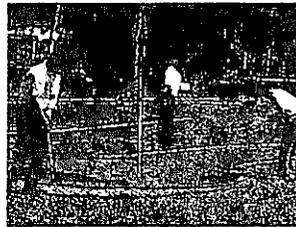


# RECREATION

楽しさ爽快、汗が光るワンダーランド  
ノーザンホースパークでは乗馬のほかにいろいろなスポーツや遊びが楽しめます。  
●パークゴルフ ●ターゲッティング ●ゴルフ ●バスターゴルフ ●テニスコート ●子供広場 ●緑の広場



ターゲット



バスターゴルフ

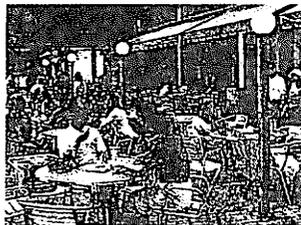
# TASTE



カフェテリア「シャンティ」



売店



テラス

グルメとショッピング。  
コミュニティランド。  
馬とのふれあいの後は、グルメとショッピングで旅の思い出づくり。お食事はお好みに合わせて、ごゆっくりお過ごしください。  
●レストラン「ノーザンテラス」 ●カフェテリア「シャンティ」 ●パークキューエテリア「キャロルハウス」 ●テラス ●売店

# 人と、馬と、自然が出会う空間。



## 新千歳空港より車で15分 ノーザンホースパーク

〒059-1361 北海道苫小牧市美沢前4-7  
TEL.0144-58-2116代 FAX.0144-58-2377  
開園時間(夏期間) 9:00-19:30

※休園期間(冬期間) 12月1日～2月28日 ※休園期間(春期間) 3月1日～5月31日



## みゆきちゃん定食

日替わり定食 580円～

丼物 450円～

北区北20条西6丁目

TEL 756 - 3410

(営)10:30～23:00

## 美味しさ発見

新しくオシャレになった  
時の館で、一時を  
すごしてみませんか。



カレーライス  
焼肉丼  
ソフトクリーム  
各種あります。

営業：11:00～24:00  
N18 W7  
TEL 726-0158

カレーから明日を見つめる

自由人舎 時館

## タイヤタウン札幌

タイヤ選びのベストパートナー

GAB・HKS・TRUST・KYB・圭オフィス・五次元・A'PEX・PIAA・FGK・PROF・  
FET・BLITZ・TRD・OKUYAMA・MINE'S・IPF・CUSCO・EARL'S・C'S・JAOS  
タイヤ・アルミホイール・四輪アライメント調整 車のことならタイヤタウン札幌へ！！

馬術部、本誌購読者の皆様へ

当店では皆様方に夏タイヤ、アルミを特別価格にて提供させていただきますので  
ご来店を心よりお待ちしております。 担当 栗谷川、山岸

駒ヨコハマタイヤセンター北海道

札幌市東区北26条東21丁目4-8 TEL 780-1155 FAX 780-1166

コンビニエンスストア

# With

南新川店

札幌市北区北24条西14丁目

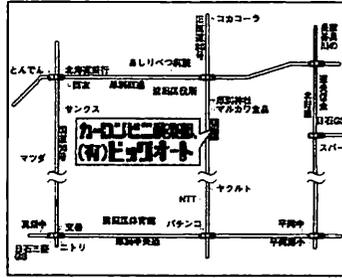
TEL 717-5480



# カーコンビニ倶楽部

愛車のキズ・ヘコミを

最短**45**分～で直しちゃおう!



# カーコンビニ倶楽部

## (有)ビッグオート

Tel.011-888-6888

Fax.011-886-2042

〒004-0871 札幌市清田区平岡2条2丁目1番55号

営業時間：8:30～20:00 休業日：日曜日・祝日（日・祝受付のみ可）



### < 広告主へ感謝のことば >

この度、平成14年度北海道大学馬術部部報発行に際し絶大なる御援助を頂きました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げますとともに諸社・諸店の御繁栄を心より祈り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)

## 編集後記

3月発行を目標に今までやってきました。しかし結果的に3月発行をできませんでした。原稿をくださった方々、広告主の皆様には本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。3月までにというのは1つの約束であり、その前提のもとで協力を得ていたにもかかわらずこのような結果になってしまい多くの方からの信用を失ってしまう形になってしまいました。また自分自身の努力を無駄にしてしまったことに対してもくやしい思いでいっぱいです。結果が示せないのならばいくら今までやってきましたと言ってもそれは意味をなさないものです。

この仕事を通して「責任感」と言う事を考えさせられました。自分がしなくてもと言った気持ちやそのうちなんとかなるだろうと言うような他力本願的な考え方がありました。自分の任された仕事に責任を持っていればこのような結果にならなかったと思います。

遅れましたがこの部報の発行にご協力をくださった方々に感謝致します。

この役職を通して色々な事を学びました。そのことをこれからに生かしていきたいです。今回の失敗から学んだことを次の部報に反映できるようにします。

何か意見等ございましたらお知らせください。

部報担当 馬場 絃子  
小阪 梨奈

北海道大学馬術部部報	
部報 第48号	
平成15年4月発行	
編集者	北海道大学馬術部部報担当 馬場 絃子 小阪 梨奈
印刷所	北大印刷 〒060-0808 札幌市北区北八条西八丁目 クラーク会館一階
TEL	(011) 747-8886
FAX	(011) 756-7971
発行所	北海道大学馬術部 〒001-0023 札幌市北区北二十三条西十二丁目
TEL	(011) 737-1626
FAX	(011) 737-1626

